



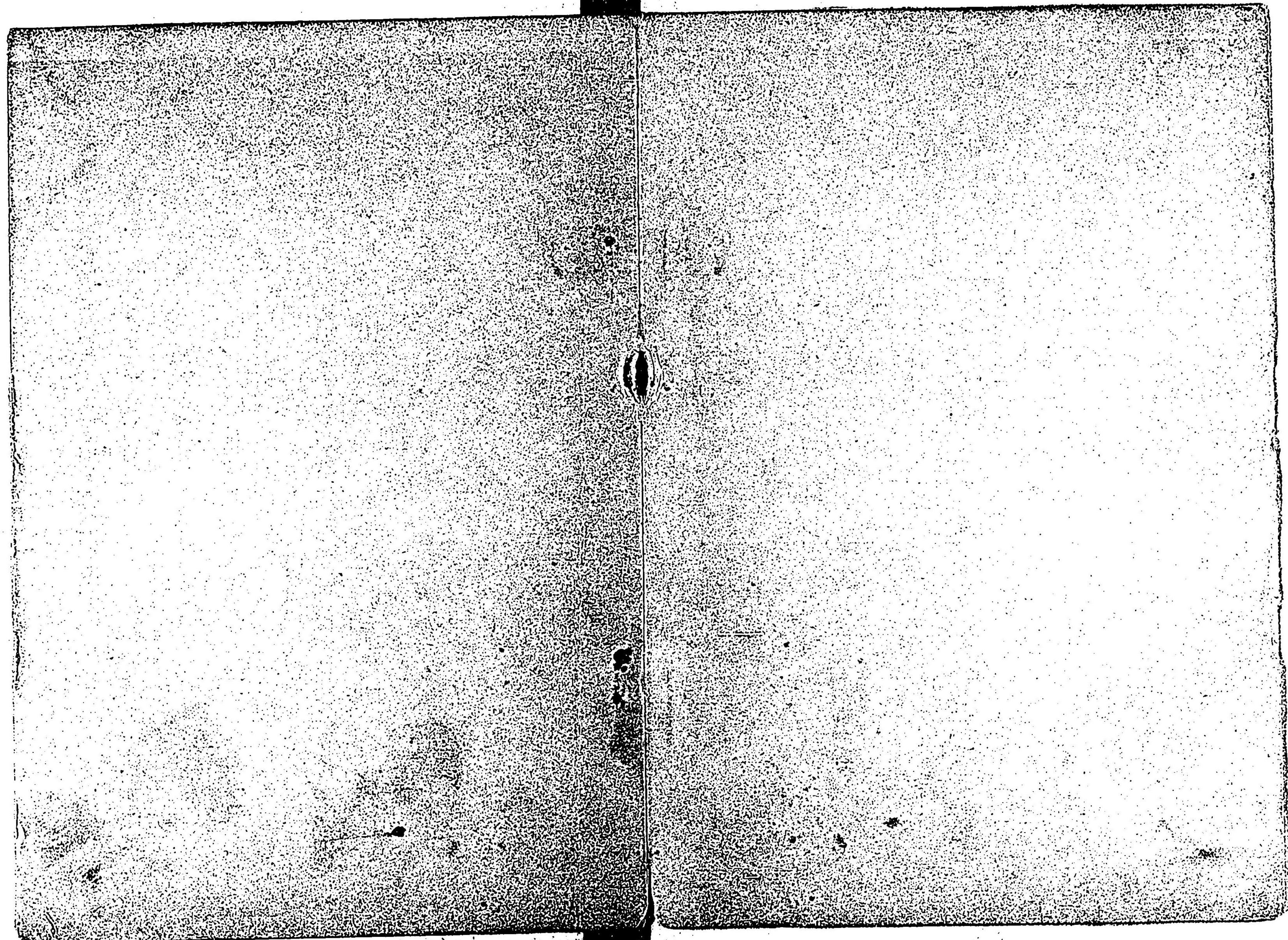
河村定靜先生 著

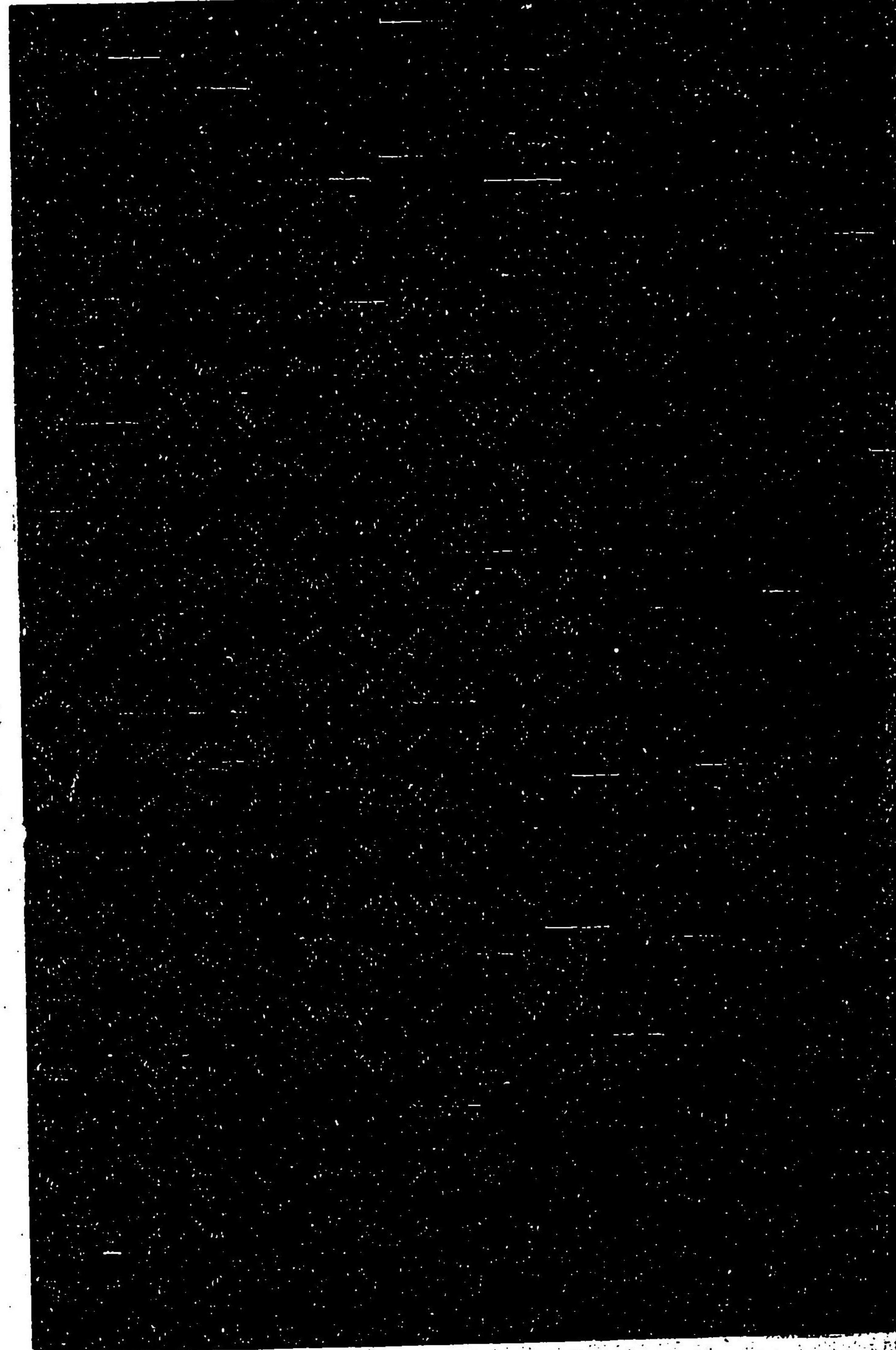
用語  
解釋  
實用  
新用  
文

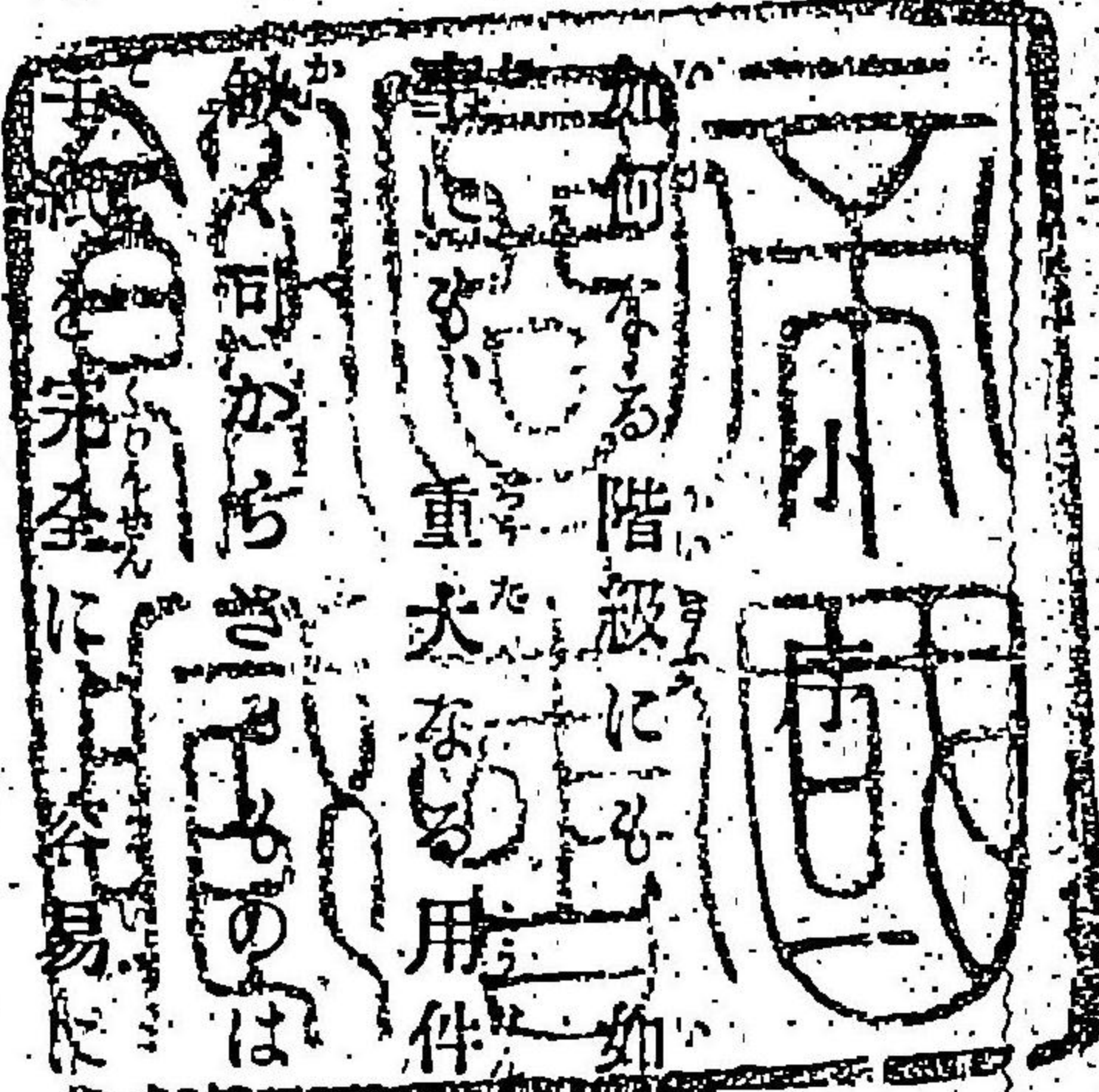
東京大學館發行

253  
31









綴るには、また適當の参考書に依つて練習するを肝要とす。依つて今最も實地に活用し得べき用文の種類を選び、それを十數冊に分ち、各門に實例數十題を擧げ且つ用語に就いて各々註釋を施したれば、何人も嘗て

如何なる職業にも、吉事にも、日常の瑣事に到るまで、即ち手紙なりとす。而して此の必要を待て、禮を失はずに書き

治凶 38 12 14

内表

て見ざるの便益無比の書と首肯するなる可し。聊か所  
 思を述べて序に代ふと云爾。

明治三十八年十二月

著者識

目次

手紙を書くに  
 就いての心得

目次

- 用紙……………一
- 前後……………三
- 天地……………三
- 墨色……………四
- 字體……………五
- 言語……………六
- 用語……………七

祝賀門

- 脇付……………七
- 尙々書……………八
- 封筒……………九
- 祝賀文書方心得……………九
- 新年を賀する文……………二
- 同じく返事……………三
- 平産を賀する文……………五
- 同じく返事……………六
- 結婚を賀する文……………七

- 同じく返事……………一六
- 養子を迎へしを祝する文……………二〇
- 同じく返事……………二二
- 家督相續を祝する文……………二三
- 同じく返事……………二四
- 入學を賀する文……………二六
- 同じく返事……………二七
- 卒業を賀する文……………二九
- 同じく返事……………二九
- 入營を祝する文……………三一

- 同じく返事……………三三
- 仕官を賀する文……………三三
- 同じく返事……………三四
- 豊年を祝する文……………三五
- 同じく返事……………三六
- 歳末祝ひの文……………三七
- 同じく返事……………三九

見舞門

- 見舞文書方心得……………三九

- 寒中見舞の文……………三九
- 同じく返事……………四一
- 暑中見舞の文……………四二
- 同じく返事……………四四
- 梅雨見舞の文……………四五
- 同じく返事……………四七
- 病氣見舞の文……………四七
- 同じく返事……………四九
- 留守見舞の文……………五〇
- 同じく返事……………五一

- 近火見舞の文……………五二
- 同じく返事……………五三
- 洪水見舞の文……………五四
- 同じく返事……………五五
- 烈風見舞の文……………五六
- 同じく返事……………五七
- 地震見舞の文……………五九
- 同じく返事……………六〇
- 大雷見舞の文……………六一
- 同じく返事……………六三

○大早見舞の文……………三  
○同じく返事……………四

贈呈門

○贈呈文書方心得……………五  
○新茶を贈る文……………五  
○同じく返事……………六  
○松茸を贈る文……………六  
○同じく返事……………六  
○西洋林檎を贈る文……………六

○同じく返事……………七

○松實を贈る文……………七

○同じく返事……………七

○筍を贈る文……………七

○年魚を贈る文……………七

○同じく返事……………七

○福壽草を贈る文……………七

○牡丹花を贈る文……………七

○同じく返事……………七

○菊花を贈る文……………八

○同じく返事……………八

○書籍を贈る文……………八

○鈴虫を贈る文……………八

○螢を贈る文……………八

○たねなしの實を贈る文……………八

誘引門

○誘引文書方心得……………八

○雪見誘引の文……………八

○同じく返事……………八

○梅見誘引の文……………八

○同じく返事……………八

○野遊び誘引の文……………八

○同じく返事……………八

○花見誘引の文……………九

○同じく返事……………九

○汐干狩誘引の文……………九

○同じく返事……………九

○螢狩誘引の文……………九

○同じく返事……………九

- 舟遊び誘引の文……………九六
- 同じく返事……………九七
- 月見誘引の文……………九八
- 同じく返事……………九九
- 葦狩誘引の文……………一〇〇
- 蕨採り誘引の文……………一〇〇
- 釣魚誘引の文……………一〇一
- 同じく返事……………一〇三
- 菊見誘引の文……………一〇三
- 七草見物誘引の文……………一〇四

- 紅葉狩誘引の文……………一〇四
- 蓮見誘引の文……………一〇五
- 東京見物誘引の文……………一〇六
- 伊勢参宮誘引の文……………一〇七
- 書畫會に誘引の文……………一〇八

**依 頼 門**

- 依頼文書方心得……………一〇九
- 保證を頼む文……………一一〇
- 傳言を頼む文……………一一一

- 仕立物を頼む文……………一一二
- 田植に手傳を頼む文……………一一三
- 稻刈に手傳を頼む文……………一一三
- 茶摘に手傳を頼む文……………一一四
- 移轉に手傳を頼む文……………一一四
- 留守を頼む文……………一一五
- 同道を頼む文……………一一六
- 買物を頼む文……………一一七
- 媒酌を頼む文……………一一八
- 居宅の賣却を頼む文……………一一九

- 田地買入を頼む文……………一二〇
- 雜誌交換を頼む文……………一二〇
- 校正方を頼む文……………一二一
- 鑑定を頼む文……………一二三
- 土地の案内を頼む文……………一二五
- 忘れ物の致致を頼む文……………一二四
- 逃亡人の搜索を頼む文……………一二五
- 紹介を頼む文……………一二六
- 煤掃に手傳を頼む文……………一二七



催 設 門

- 催設文書方心得 ..... 一三六
- 輪讀會を催ふす文 ..... 一三六
- 作文會を催ふす文 ..... 一三九
- 談話會を催ふす文 ..... 一四〇
- 演說會を催す文 ..... 一四一
- 親睦會を催ふす文 ..... 一四三
- 新年宴會を催す文 ..... 一四三
- 忘年會を催す文 ..... 一四三

報 告 門

- 送別會を催す文 ..... 一四四
- 祝捷會を催す文 ..... 一四五
- 歡迎會を催す文 ..... 一三七
- 祝宴會を催す文 ..... 一三六
- 潮干狩を催す文 ..... 一八九
- 遊山を催す文 ..... 一四〇
- 夜學を催す文 ..... 一四一
- 報告文書方心得 ..... 一四二

- 出産を報ずる文 ..... 一四二
- 安着を報ずる文 ..... 一四三
- 發足を報ずる文 ..... 一四四
- 病氣を報ずる文 ..... 一四四
- 急病を報ずる文 ..... 一四五
- 全快を報ずる文 ..... 一四五
- 死去を報ずる文 ..... 一四七
- 横死を報ずる文 ..... 一四七
- 轉居を報ずる文 ..... 一四九
- 開店を報ずる文 ..... 一四九
- 入校を報ずる文 ..... 一五〇
- 出校を報ずる文 ..... 一五一
- 及第を報ずる文 ..... 一五二
- 旅行を報ずる文 ..... 一五三
- 歸國を報ずる文 ..... 一五四
- 歸京延引を報ずる文 ..... 一五五
- 花期を報ずる文 ..... 一五五
- 解雇を報ずる文 ..... 一五六
- 收穫を報ずる文 ..... 一五七
- 風害を報ずる文 ..... 一五八

○商況を報ずる文 ..... 一六〇

○農況を報ずる文 ..... 一六〇

貸借門

○貸借書方心得 ..... 一六一

○書籍を借る文 ..... 一六一

○書物を返へす文 ..... 一六二

○器具を借る文 ..... 一六三

○器物を返へす文 ..... 一六四

○雨具を返へす文 ..... 一六四

○金子を借る文 ..... 一六五

○金子返済の文 ..... 一六六

問合門

○問合文書方心得 ..... 一六七

○縁談問合せの文 ..... 一六八

○試験の日時問合せの文 ..... 一六九

○作文の宿題問合せの文 ..... 一七〇

○休校の理由問合せの文 ..... 一七〇

○書籍の良否問合せの文 ..... 一七一

○同じく返事 ..... 一七二

○醫師の良否問合せの文 ..... 一七四

○人の住所問合せの文 ..... 一七五

○人の滞在時間問合せの文 ..... 一七六

○人の轉居先問合せの文 ..... 一七七

○發足日限問合せの文 ..... 一七八

○汽船の出帆を問合はする文 ..... 一七九

○米作の景況問合せの文 ..... 一八〇

○送金の着否問合せの文 ..... 一八〇

○賣地の有無問合せの文 ..... 一八一

招聘門

○賣家の有無問合せの文 ..... 一八一

○書籍の有無問合せの文 ..... 一八三

○書畫の有無問合せの文 ..... 一八四

○工場縦覽の許否問合せの文 ..... 一八四

○談話會開會の時間問合の文 ..... 一八五

○招聘文の書方心得 ..... 一八六

○新年宴會に人を招く文 ..... 一八六

○紀元節に人を招く文 ..... 一八七

○ 雨中人を招く文 ..... 一九八

○ 月見に招く文 ..... 一九九

○ 同じく返事 ..... 一九〇

○ 蓮見に人を招く文 ..... 一九〇

○ 菊見に人を招く文 ..... 一九一

○ 同じく返事 ..... 一九二

○ 雪見に人を招く文 ..... 一九三

○ 同じく返事 ..... 一九四

○ 壽宴に人を招く文 ..... 一九四

○ 七夜に人を招く文 ..... 一九五

---

○ 開業祝に人を招く文 ..... 一九六

○ 醫師を招く文 ..... 一九七

○ 全快祝に人を招く文 ..... 一九七

○ 安着祝に人を招く文 ..... 一九八

○ 豊作祝に人を招く文 ..... 一九九

○ 書畫會に人を招く文 ..... 二〇〇

○ 祭祀に人を招く文 ..... 二〇一

謝禮門

○ 謝禮文の書方心得 ..... 二〇一

(三) 次 目

○ 饗應を謝する文 ..... 二〇三

○ 新茶を贈らるゝを謝する文 ..... 二〇三

○ 土産物を贈り呉れしを謝する文 ..... 二〇四

○ 忘れ物を送り呉れしを謝する文 ..... 二〇五

○ 滞在中世話になりしを謝する文 ..... 二〇六

○ 留守中世話になりしを謝する文 ..... 二〇七

---

○ 病中見舞を受けしを謝する文 ..... 二〇八

○ 器物を借りたる禮狀 ..... 二〇九

○ 書籍を借りし禮狀 ..... 二一〇

○ 雨具を借りし禮狀 ..... 二一一

○ 近火見舞を受けし禮狀 ..... 二一二

○ 危難を救はれし禮狀 ..... 二一三

○ 嚮導者への禮狀 ..... 二一五

○ 金子を借り受けし禮狀 ..... 二一五

○ 忠告して呉れし禮狀 ..... 二一七

謝絶門

- 謝絶文の書方心得 ..... 二二九
- 約束を断はる文 ..... 二二九
- 出席を断はる文 ..... 二三〇
- 招ぎを辭する文 ..... 二三三
- 不時の招ぎを辭する文 ..... 二三三
- 花見誘引を断はる文 ..... 二三四
- 海水浴に誘はれしを断る文 ..... 二三五
- 雪見に誘はれしを断はる文 ..... 二三六

- 茸狩に誘はれしを断はる文 ..... 二三六
- 避暑に誘はれしを断はる文 ..... 二三九
- 金談を受けしを断はる文 ..... 二三〇
- 物品借入申込みを断はる文 ..... 二三二
- 書籍の借入申込みを断る文 ..... 二三三
- 代理の依頼を断はる文 ..... 二三三
- 入社を断はる文 ..... 二三三
- 面會を謝絶する文 ..... 二三四

謝罪門

- 借用品を毀損せしを謝する文 ..... 二四五

忠告門

- 忠告文の書方心得 ..... 二四六
- 怠惰の友を戒しむる文 ..... 二四六
- 飲酒を戒しむる文 ..... 二四六
- 女色に耽ける人を戒むる文 ..... 二四九
- 浮薄な人を諫むる文 ..... 二五〇
- 不待遇を忠告する文 ..... 二五三

- 謝罪文の書方心得 ..... 二二五
- 不沙汰を陳謝する文 ..... 二二六
- 疎忽を謝する文 ..... 二二七
- 違約を謝する文 ..... 二二八
- 長坐を謝する文 ..... 二二九
- 來訪せし人に謝する文 ..... 二三〇
- 會期を誤るるを謝する文 ..... 二三〇
- 泥酔せしを謝する文 ..... 二三二
- 送金の延引せしを謝する文 ..... 二三二
- 報告延引を謝する文 ..... 二三四

○不攝制を戒むる文……………三五

○人の久しく歸省せざるを諫むる文……………三五

○投機家を諫むる文……………三五

目次終

用語解釋 實用新用文

河村定靜著

○手紙を書くに就いての心得

手紙は、自己のこゝろを露はす代表者なれば、之れを認むる上に於いて、深く注意せねばならぬことがある、何故といへば、古來之れを認むるには、其れく法式があつて、萬一之れに隨はぬ時は、無禮なりとの譏りを免るゝことを得ぬためである、人相互ひに交際するには、禮儀作法といふものがあつて、相狎れ汚がすことが出来ぬやうになつて居る、決して書簡の往復に於いてのみやかましく云ふのではない、然るに當今の學生とか「ハイカラ」黨とか云へる人

(一) 得心のてい就にく書を紙手

々を見るに、多く之れを度外に附して、毫を省みることのあらざるは、何んといふ現象であらうか、決してよろこぶべきことではないとおもふ、凡そ禮儀作法といふものは、人世に缺くべからざる要具であるから、成るべく之れに背いて云々されぬやうにするは、處世の道にかなへるものと言はねばならぬ、されば手紙の書きやうも、よく心得おさへ、人に笑はれぬやうにすべきことである、して第一に心得べきは、

用 紙

である、我が邦にはむかしから、巻紙といへる一種の紙あつて、専ら手紙用に供せられて居る、故に手紙は成るべく巻紙を用ゐて、決して他の紙を用ゐぬやうにせねばならぬ、半紙などの如きものに、

鉛筆にて書いて遣るは、無禮の最も甚だしきものである、平生極の仲好にて、隔てのなき友達ならば兎も角、あまり交際の深からぬ人に向ひて、かゝる無禮を極むるは、世人に厭やがるゝ基であるから、なるべく巻紙を用ゆるがよい、其れから用紙の

前 後

には、よく注意して、ブツツケ頂上から書き始めてはならぬ、古來先方の人によつて、用紙の前をも後をも、三寸又は二寸五分、又は一寸五分位あけるをもつて禮として居る、だから先方の相手によつて、適宜にあげて認むるやうにするが肝要である、決して少しも餘裕をも残さずに、書き始めてはならぬ、其れから

天 地

といふて、用紙の上下に注意せねばならぬ、巻紙にもよるけれども、上方を五分あけたならば、下の方は三分ぐらいあけ、上を三分ばかり明けたならば、下をば二分ぐらいあければならぬ、天地すきまなく書き詰めて、先方の人に讀取するに困難ならしむるは、決して褒むべきことではない、且つ見たところも見つともなくて、その人の平生も思ひやられ、自己の品格に及ばす結果も重大なるものなれば、よく注意せねばならぬ、其れから

墨色

といふて、文字を認むる墨色も、成るべく同じやうな色にして、濃かつたり薄すかつたりさせてはならぬ、二三行が濃くして、二三行が淡かつたり、丸で淡墨にて、字体の判然せぬなどは、人を馬鹿に

したやうに見えて、甚だ見にくきものである、況して鉛筆などにて、走り書きするは、實に無禮の極点といふものである、それから

字体

もまた、成るべく正格と認めて、誰にも讀めるやうに書くが本意である、能書ぶつて、字体の分らぬやうに書いたり、書けもせぬ癖に無暗矢鱈に書きなぐるは、實に見苦しきばかりでなく、實用に適せずして、手紙の文の効用に背むくものである、文字は言語の符號であるから、明瞭の上にも明瞭に書きて、一目瞭然たるやうにするのは、普通文の効用に適したものと云ふべきものじや、されば公然たる書類は言ふまでもなく、私書の如きも成るべく分り易き文字にて書き認め、誰にも讀めるやうにせねばならぬ、是れが即ち手紙の文

の主用なのである、それから

言語

も、先方の人によつて、それ相應な敬語を用ゆる必要がある、父母に用ゆる敬語と、子弟に用ゆる詞言とは、素より一様にする事は出来ぬ、目上の人には其れだけの言語を用ゐ、目下のものにはそれ相當の言語を用ゆべきは、社交上に於ける缺くべからざる作法じや況して我が邦の如く、貴賤尊卑の差別の嚴しき國柄にありては、忘れても此の區別を失念してはならぬ、西洋の風に浸染されて居る人々は、自然に不敬なる言語を用ゐ慣れて、随分聞き苦しき言語を平氣で用ゐて居る人がある、よく自から戒しめて、人の笑ひを招かぬやうにせねばならぬ、又手紙の

用語

も、成るべく普通のものを用ゐて、陳文漢語など、いふて、見たことのないやうな新奇な熟語を使用して、人をねどろかさやうなことをしてはならぬ、手紙の用語は古來一通りきまつて居るから、成るべく之れを襲用して、奇異な熟語や六かしき文字は使用せぬやうにせねばならぬ、手紙の文は實用を貴ぶもので、先方の人に分ればよいのである、何も大學者ぶつて、人を困らせるにはあたらぬものである、

脇付

親展、親剪、親披、直披、平信、平安、など、書するも



のがあるが、此れもまた貴賤尊卑に依つて、書き方に其の區別があるが、誤用して人に笑はれぬやうにせねばならぬ、誰にも彼にも閣下と書したり、秘密を要せぬことに、親展、直披と書するなどは、自から輕んずるものにて、人の笑ひを招かざらんとするも、其れ得んやと言はねばならぬやうになる、だから注意が肝要である、

### 尙々書

尙々書といふは、追啓、再白、二伸などとも云ひて、本文外の用事にて、本文に關係なき事を書き記すのである、決して本文の足らぬところを補ふのではない、それから之れを書くに、二様の別があつて、混用することを許さぬ、一は先方の姓名を記した後、書き足すものにて、本文よりは二三字引きさげてかくのが道である、一は本

文の行間に記入するものにて、本文より一字位さげて書き、且つ字体を細く小さく書きて、本文と一見區別のつくやうにせねばならぬ、うれから祝ひ文や悔み状には、決して書くべきものではない、是れは忘れても侵してはならぬ、

### 封筒

封筒は俗に状袋と云ひて、その書き認めた手紙を入れて、その手紙をやる人の手元に送り届ける道具である、だから人に書面をおくる時は、其の用の秘密を守るがために、先方の人に對して無禮にあたらぬやうにするために、是非とも封筒に入れる必要がある、若し口上がはりの手紙にて、封筒に入れる必用がないものか、先方の人と極中好にて、禮を守る必用のないときに限り、封筒を用ゆるに及ば

ぬのである、それから封筒の表書も裏書も、字体を判然と書き記し、決して人に分らぬやうに認めてはならぬ、若し郵便に附するものなるときは、郵便印紙をば表の左方の上部にはり、決して裏面の封じ目などにはりつけてはならぬ、且つ都會に在る人に送るときは町々番地を明瞭に記して、何府縣、何郡市町などのみ書して、番地を書き落してはならぬ、是れ番地の明瞭ならざるより、往々送り戻さるゝ心配があるためである、兎角地方の人は、一地方のことをもつて大都會のことを推測するより、飛んだ間違を仕出たすことがある、忘れても町名番地を書き落してはならぬ、

祝賀門

祝賀の文は、目出度ことや、よろこばしきことを祝ひ賀するた

めに送る文章であるから、不吉な文句や、不目出たき言語は、決して用ゐてはならぬ、當今の人には、物に拘泥せぬを誇りとし居れども、人の結婚せしを賀するに當り、「はなれる」わかれる」「される」もどる」「しりぞく」杯の不吉なる文句を使用して、平然とかまへて居るなどは、實にあきれたことではないが、出産を賀し、家督相續を祝し、開店を祝し、仕官を賀し、入營を祝し、入學を賀するなどの手紙の文に對しては、充分なる注意を拂ふの必要がある、社交に巧みなる人は、總ての方面に向つて細密なる注意を拂ひ、決して人の思ひ嫌ふことをば犯すことをせぬ是れは手紙を書く上にも採用して、模範とするに足ることではなからふか、

○新年を賀する文

改曆の嘉瑞千里同風目出度申し納め候、先づ以て高

堂皆々様、益御機嫌能く御重歳遊ばされ、大慶至極に存じ奉つり候、次に陋屋一同碌々として馬齡を加へ候間、憚り乍ら御休心下され度候、平生は兎角御無音のみに打ち過ぎ、絶えて御起居をも伺ひ奉らず、多罪此の事に候、先づは年頭の御祝詞申し上げたたく、寸楮進呈仕り候、何れ春陽の時を期し、縷々申し上ぐべく候、恐惶謹言

用語解釋

- 改曆 かいはれき 改めしんねんのこと
- 嘉瑞 かすず めでたき
- 千里同風 せんりどうふう 遠くまで
- 馬齡 ばれい 馬の年
- 御休心 ごきしん 御心を休む
- 平生 へいせい 平素
- 御無音 ごむいん 御音の無き
- 目出度 めでたく 喜ぶべき
- 高堂 かうたう 高き
- 御機嫌能く ごきげんよく 御機嫌よく
- 大慶至極 たいせいきよく 大いに喜ぶ
- 陋屋 ろうい 狭き
- 碌々 ろくろく 碌々
- 御起居 ごきしよ 御起居
- 多罪 たざい 多き罪
- 年頭 ねんとう 年の初め
- 御祝詞 ごしゆし 御祝詞
- 寸楮 すんしよ 寸楮
- 春陽の時 しゆんやうの時 春陽の時
- 縷々 るる 縷々

同じく返事

來諭の如く、新年の御慶は、御同様に目出度申し納め候、先づ以て御全家御別條なく、御加齡遊ばされ候段、何寄の大慶と、恭賀奉つり候、隨て弊舎一同無事越年仕り候間、慮外ながら、御安心下されたく候、實は當方より、早速御祝儀申し上ぐべき心得のころ、却て御懇篤なる御賀状にあづかり、汗顔之

れに過ぎず候、特に昨年中は、御懇切なる御交誼を  
恭うし、千萬拜謝奉つり候、當年も相かはらず、御  
懇情にあつかりたく、先は年頭御祝詞の御答禮まで、  
此の如くに御座候、頓首敬白、

用語解釋

- 同様
- 何寄の大慶
- 無事越年
- 速
- 御祝儀
- 特に
- 當年
- 全家
- 何寄の大慶
- 慮外
- 御祝儀
- 御懇切
- 御懇情
- 新年
- 御別條なく
- 恭賀
- 御安心
- 御交誼
- 御答禮
- 御慶
- 御加齡
- 弊舎
- 當方
- 早
- 汗顔
- 千萬拜謝
- 頓首敬白

○ 平産を賀する文

御令閨様には昨夜御平産遊ばされ、特に御男子御出  
生の由、大賀の至りに存じ奉つり候、男兒は其の家  
の礎に候へば、一入御満悦の事、およろこび申し  
上げ候、此の松魚節一連、長崎よりの到来に任せ、  
輕微には候へ共、お祝ひの印しまでに呈上仕り候、時  
下不順の候に候へば、御母子様とも御攝養專一にな  
さるべく候、匆々頓首、

用語解釋

- 御令閨
- 御平産
- 御出生

- 大賀 おほが おほがらむ
- 御満悦 ごまんえつ ごまんえつ
- 到米 たうまい たうまい
- 輕減 けいげん けいげん
- 御攝養 ごしやくやう ごしやくやう
- 呈上 ていじやう ていじやう
- 時下 じげ じげ
- 不順の候 ふじゆんのかう ふじゆんのかう
- 御一 ごいち ごいち

○全じく返事

愚妻ここ、昨夜安産仕り、母子共至極健全にて、安心  
 まかり在り候も、何かと取り紛れ、未たお知らせも仕  
 らず置き候ところ、早速御よろこびに預かり、御厚意  
 の程唯々感銘仕るのみに御座候、分けて生長をお祝  
 ひ下され候て、長崎より到來の松魚節御惠贈にあつ  
 かり、深くお禮申し上げ候、先は御禮状まで、斯の

如くに御座候、拜復、

用語解釋

- 愚妻 ぐさい ぐさい
- 安産 あんさん あんさん
- 至極 しごく しごく
- 健全 けんぜん けんぜん
- 取り紛れ とりまじれ とりまじれ
- 感銘 かんめい かんめい
- 生長 せいじやう せいじやう
- 御惠贈 ごけいぞう ごけいぞう
- 御禮状 ごれいじやう ごれいじやう
- 拜復 はいふく はいふく

○結婚を賀する文

承はり候へば、御令息様には此の度御良縁を得られ  
 某家の御令嬢と結婚の御約束相整ひ、昨夕を以て御  
 婚儀滞りなく済ませられ候由、千鶴万龜目出度御祝  
 ひ申し上げ候、素より才學を以て名を得られ候某令

嬢に候へば、御兩親様方の御よろこびは、嘸かしこ  
思はれ候て、おうらやましく存じ奉つり候、此の紅  
白縮緬二巻、御祝ひの印まで、進呈仕り候、拜具

用語解釋

- 御令息 ごれいしつ
- 御良縁 ごれいぜん
- 御令嬢 ごれいぢやう
- 結 むす
- 婚 くわん
- 御約束相整ひ ごやくさくさうせいひ
- 昨夕 けつせき
- 御婚儀 ごくわんぎ
- 千鶴万龜 せんじゆばんき
- 才學 さいがく
- 進呈 しんせい

○全じく返事

愚息の婚儀首尾よく相濟み候ことを御聞き込みに相  
成り、御丁寧にも御祝ひ下され、有りがたくお禮仕  
り候、親戚知己のすゝめに由り、時節柄をも願みす

婚儀を決行いたし候ため、萬事控え目にいたし、略  
禮にて相濟し候ゆる、別に御通知をも致さず候ひし  
事、實にお申し譯これなく、平にお詫び申し上げ候、  
何れ不日お友達の旁々を御招待申し上ぐる筈に候へ  
は、其の節は是非御尊來下されたく、先は御禮状ま  
で、斯の如くに候、再拜、

用語解釋

- 愚息 ぐそく
- 首尾よく相濟 しゆびよくさうせい
- 御丁寧 ごていねい
- 親戚知己 しんせきちぎ
- 決行 けつかう
- 萬事 ばんじ
- 略禮 りやくれい
- 御通知 ごつうち
- 不日 ふじつ
- 御招待 ごせうたい
- 是非 しぜい
- 御尊來 ごそんらい
- 御禮状 ごれいじやう

○養子を迎へしを祝する文

愈御養子お迎へに相成り候由、大慶此のことと、賀し上げ奉つり候、特に今回たむかへに成りし賢一君は、二千人にあまる生徒中にあつて、才學共に拔群の譽れを取られ候方ゆゑ、御家政を御任かせ相成り候には、至極適當の御方と存せられ候、御老後の御たのしみ、此の上なきこと、賀し奉つり候、此の品あまり輕少には候へども、御祝儀の印しまでに呈上仕り候間、御受納下されたく候、匆々、

用語解釋

御養子 養子  
○今回 今回  
○才學 才學  
○拔群 拔群

○譽れ 譽れ  
○御家政 御家政  
○適當 適當  
○御老後 御老後

○全じく返事

此度世話いたし呉れ候人これあり、養子相むかへ候ごころ、御丁寧にも結構なる品々お祝ひ下され、實にお禮の申し上げやうも之れなく候、野夫も追々取る年波に氣力も体力も衰へ候て、迎も社會のあらさ風に抵抗いたしがたく相成り候ため、先づく迎へ取り、家政を任せ候ことに致し申し候、唯今のところにては、性質も分り兼ね候へども、悪き方にもな

かるべしと、稍安堵いたし居り候、先は御禮申し上  
け候まで、一書進呈仕り候、謹言

用語解釋

世話 ちねんと ○御丁寧 ちねんと ○結構なる品

○野夫 ちねんのこと ○氣力 ちねんのち ○体力 ちねんの

○抵抗 ちねんのこと ○生質 ちねんのこと ○安堵 ちねんのこと

○進呈 ちねんのこと ○謹言 ちねんのこと

○家督相續を祝する文

いよく御家督御相續の御儀式、御執行あひ成り候  
由、大慶至極に存じ奉つり候、申せば阿謏に近く候  
へ共、貴兄は既に世故に慣れられ、且つ人事にも通

曉いたされ候へば、今後萬事に御遺漏なく、御家運  
もますます御繁榮に向はせられ候ことは、知れ切て  
居り候へば祝し奉らねばならぬ儀と存じ奉つり候、  
御尊父さまは、久しく御隠居遊ばされたき御所存の  
やうに見受け居り候ところ、今回の御實行にて、先  
づく御安心遊ばされ候こと、おうらやましく存  
ぜられ候、此の品粗末には候へ共、御祝ひの印まで  
に、貴覧に供へ候、御叱留下され候へば、本懐の至  
りに候頓首

用語解釋

御家督 ちねんのこと ○御相續 ちねんのこと ○御儀式 ちねんのこと



御執行 ごしつりやう 御執事 ごしつじ ○阿諛 あごん ○世故 よのなから ○御遺漏 ござらう ○御家運 ごけうん  
 ○御繁榮 ごはんえい ○御尊父 ごそんぷ ○隱居 いんきん ○御所存 ごしよぞん  
 ○御實行 ごじつから ○貴覽に供へ きらんにかへ ○御叱留 ごしつりぢ ○本懐の ほんくわいの  
 至り いた おもよるたどほり

○同じく返事

野生家督相續いたし候に付き、御祝ひ下され候のみならず、結構なる御品おくり下され、ありがたく御禮仕り候、大兄も御承知の通り、愚父も近頃は老衰いたし候に付き、安堵いたさせたまものと存じ不省の身をも顧みず、跡目相續いたし候へ共、諸事

不慣に候へば、何事によらず、御示教を仰ぎたまもの候、何れ近日の内、よき日を卜し、祝宴相開き候間、其の節は、是非とも御來車下されたく候、先はお禮かたく右申し上げたたく、此の如くに候、勿々拜復

用語解釋

野生 やせい 家督相續 かどくさうぞく 結構 けつこう 御承知 ごじょうち 大分 おほぶん 老衰 らうさい 安堵 あんぞ 不肖の身 せうしやうのみ 跡目相續 あとめさうぞく 諸事不慣 しよじふんぱん 御示教 ごしじょう ○卜 うらな ○祝宴 しゆいばん ○是非 せひ 御來車 ごらいしゃ 御禮 ごれい

○入學を賀する文

御令息様御事、今般學齡に達せられ候ため、尋常小學へ御入學あそばされ候由、まここに喜ぶべき吉事とこそ存ぜられ候、素より美玉の如き御性質に候ところへ、教育ご云ふ美飾をつけられ候はゞ、如何なる立派なる御人格となられ候やと、唯今より待ち焦ると思ひいたし候、此の書在來のものに候へ共、御勤學の一助にも相成り候はんかと、御令息の机下へ進呈仕り候、先は御令息の前途を祝し候まで、斯の如くに候、再拜

用語解釋

御令息様 今般 學齡 吉事 ○美玉の如き御性質 今般 學齡 ○學齡 立派 ○御人格 在來 御勤學 助 ○机下 前途 ○

○同じく返事

豚兒儀。學齡に達し候ため、入學いたさせ候ところ貴重なる書籍を祝ひ下され、有りがたくは禮仕り候愚鈍のうまれつきに候へご、充分なる教育を施し候はゞ、或は社會に立つて、失敗を取るやうなこともなかるべきかと、其れのみ頼みにいたし居り申し候

御投與の品は、目下必用に逼り居り候よしにて、大  
よろこびに御坐候、先はお禮申し上げ候まで、此の  
如くに御坐候、拜復

用語解釋

豚兒儀

○貴重

書籍

○愚鈍

○充分

○社會

○失敗

○御投與

○目下

○必用

○逼り居り

○卒業を賀する文

承はり候へば、此の度の大試験にて、首尾よく御卒  
業遊ばされ、特に最高位を占められ候ての御卒業の  
趣き、大賀の至りに存じ奉つり候、是れ平素御勤學

の功果、今日にあらはれ候ものにて、當然の儀とは  
申し乍ら、實に感佩の外之れなく候、尙此の上とも  
御精勤なされ候て、他日の大成功を期せられ候やう  
いたし度、因て萬國大地圖并びに世界商業史を呈し  
前途を祝し奉つり候、頓首

用語解釋

大試験

○首尾よく

○御卒業

○最高位

○平素

○御勤學

○功果

○當然

○感佩

○御精勤

○他日

○大成功

○前途

○全じく返事

小弟今回全科卒業仕り候を祝され、御丁寧なる賀詞を賜はり候上に、前送を祝せられての御寄贈物は、實に有りがたく拜受仕り候、素より愚鈍な生れつきに候へども、諸兄の御示教を受け候て、今後の大方針を取りさめたくと覺悟まかり在り候間、何卒よろしく御指導下されたく候、先は右御禮申し上げ候まで、斯の如くに候、百拜

用語解釋

- 小弟 せうてい 小兄弟 せうてい
- 今回 こんかい 今回 こんかい
- 全科卒業 ぜんこくそつぎょう 全科卒業 ぜんこくそつぎょう
- 賀詞 がことば 賀詞 がことば
- 御寄贈物 ごきそんぶつ 御寄贈物 ごきそんぶつ
- 拜受 はいじゆ 拜受 はいじゆ
- 愚鈍 ぐどん 愚鈍 ぐどん
- 諸兄 しよけい 諸兄 しよけい
- 御示教 ごしきやう 御示教 ごしきやう
- 今後の大方針 こんごのたいほうしん 今後の大方針 こんごのたいほうしん
- 覺悟 かくご 覺悟 かくご
- 御指 ごさし 御指 ごさし

導 みちびき 〇百拜 ひゃくばい

〇入營を祝する文

大兄には、今度の徴兵検査に御合格相成り、且つ御當籤の榮を荷はれ候て、いよく御入營相成り候由誠に目出度、御事に御坐候、大兄も御承知の通り、兵役は國民の大義務にて、之れに服し候は、實に名譽の極に御座候、因つて茲に一書を呈して、大兄の前途を祝ひ申し上げ候、匆々

用語解釋

- 徴兵検査 ていへいけんさ 徴兵検査 ていへいけんさ
- 御合格 ごがくかく 御合格 ごがくかく
- 兵役 へいじやく 兵役 へいじやく
- 常籤 たうせん 常籤 たうせん
- 榮を荷 はに 榮を荷 はに
- 御入營 ごにゅうえい 御入營 ごにゅうえい

國民 こくみん ○大義務 だいぎむ ○名譽の極 めいよのきよく ○一書を呈し いつしよをていし

○全じく返事

男兒の本分おとこにかなひ、野生やせいも今度こんど愈入營よくよくにやうすること、相成りあひな申し候、貴意きいにかけられての御祝詞ごしうしは、滿腔まんきやうの熱情ねつじやうをもつて、有りがたくれ受けいたし候、身不肖みんせうには候へど、飽くまでも國民こくみんたるの義務ぎむを盡し、倒れて後止むの決心けつしんをいたし申し候、出發しゅつぱつの前の支度しど萬端ばんたんにて、取り込み居り候へば、是れにて御免相蒙ごめんさうまうむり申し候、匆々

用語解釋

男兒の本分 おとこのほんぶん

まことたるもの

○野生 やせい

○貴意 きい

○御

祝詞 しうし

○滿腔の熱情 まんきやうのねつじやう

むねにあふれるばかり

○身不肖 みんせう

○義務 ぎむ

めつ

○倒れて後止む たふしてあととどまる

○決心 けつしん

○出發前 しゅつぱつぜん

○支度萬端 しどばんたん

端 たん

○御免 ごめん

○匆々 そうそう

○仕官を賀する文

昨夜芳里君見えられ、雅兄の今度文部省に入られたることを告げ知らされ申し候、雅兄の才學と經驗は、官吏たる資格を充分に備へ居られ候得ば、今日あるは當然のことに候、而して小子の之れをお祝ひ申し候は、雅兄の是れより昇進せられ候を知るために御

坐候、此の生鯛二尾、前途を祝するために進呈いたし候、先は右様よろこびまで、匆々頓首

用語解釋

- 雅兄 みやけい
- 文部省 もんぶしょう
- 才學 さいがく
- 經 けい
- 驗 けん
- 官吏 くわんじ
- 資格 しかく
- 充分 じゅうぶん
- 當然 たうぜん
- 小子 せうし
- 昇進 しょうしん
- 二尾 にび
- 前途 ぜんと
- 進呈 しんてい

○同じく返事

今回小生の五斗米のために腰を折り候は、年老ひたる父母に安心せしむるために候、然るに御祝詞にあづかり、汗顔の至りに耐へず候、元來小智短才の小生に候へば、到底官吏たるの資格は之れなきものと

自覺仕り候、併し一旦身を官海に入れ候上は、無能をもつて退きたくなきものと決心いたし候得ば、心得となるへもことも御坐候はゞ、御忠告下されたく候、先は御厚意を謝し奉り候まで、草々拜答

用語解釋

- 小生 せうせい
- 五斗米 ごとうまい
- 腰を折り こしをか
- 安心 あんしん
- 汗顔 あせがほ
- 元來 もとより
- 小智短才 せうちたんさい
- 到底 たうてい
- 資格 しかく
- 自覺 じかく
- 一旦 いつたん
- 官海 くわんかい
- 御忠告 ごちゆうこ
- 御厚意 ごこうい

○豊年を祝する文

本年の作柄の非常に豊穰なることは、皆人の唱へ居

るところに御座候、かゝる日出度豊年は、實に希なる由古老共の物がたりに候、貴家の作物も、非常の出来榮と傳聞いたし、一言お祝ひ申し上げ候、且つ此の澤の鶴は、豊年を祝するに遺憾なき清酒に御座候ゆる、一樽進呈いたし候、若し皆さまにて御笑味下され候へば、望外の幸福に御座候、謹言

用語解釋

- 本年の作柄
- 非常
- 豊稔
- 豊年
- 古老
- 貴家
- 傳聞
- 一言
- 遺憾
- 御笑味
- 望外
- 幸福

○同じく返事

貴命の如く、今年の豊作は、實に六十年來の出来榮に候、由、誠に賀するにあまりあることと存じ候、唯今は又、豊年祝ひと仰せられ、見事なる清酒おくり賜はり、厚くお禮申し上げ候、みなく満酌いたし十分に豊年を祝し申すべく候。勿々拜復

用語解釋

- 貴命
- 豊作
- 出来榮
- 六十
- 年來
- 満酌
- 十分

○歳末祝ひの文

當年も、本日一日と推しつまり申し候、御多忙の程如何ばかりと、蔭ながら御浦山しく存じ候、此の品

些少に候へど、歳末御祝儀として、進呈いたし候、  
匆々

用語解釋

○進呈

當年

○御多忙

○些少

○歳末

○同じく返事

歳末のお祝ひご仰せられ、見事なる品御おくり下さ  
れ、有りがたく萬謝たてまつり候、何れ當方よりも  
まかり出で、お禮申し上げべく候、先は御挨拶まで  
敬具

用語解釋

見事

○萬謝

○當方

○御挨拶

挨拶  
○敬具

見舞門

見舞とは、起居を訪ふことである、暑中見舞、寒中見舞、梅  
雨見舞、病氣見舞等のたぐひないふのじや、日用の手紙の文  
の、最も繁多に用ゐらるゝのは、此の種のものである、たか  
ら能く注意して、其の作り方を心得ればならぬ、併し此の種  
の文章には、古來おさだまりの規則があつて、之れに従はば  
世間の人に笑はるゝ心配があるから、先づ其の規則に留意し  
て、他の嘲りを招かぬやうにせればならぬ、最初の五六章は  
古めかしけれども、古來の例に従ひ、見舞文の規則にかなへ  
るものを示すことにした、

○寒中見舞の文



嚴寒の時節に御座候ところ、御満堂愈御萬福大慶此の事に御座候、隨て當方相かはらず、無事消日まかり在り候間、慮外ながら御休心下され度候、此の鶏卵二十五個甚た輕少に候へ共、自家飼養の家禽に出來候ものにて、世の所謂寒たまごに候へば、進呈仕候次第に候、御受納下され候へば、本懷の至りに候、先は寒中御見舞まで、早々此の如くに候、謹言

用語解釋

- 嚴寒の時節 げんかんのじせつ ○御満堂 ごまんどう
- 大慶此の事に御坐候 たいけいこのことごにござ候 ○當方 たうほう
- 慮外ながら りうがいながら ○御休心 ごやすしん
- 自家飼養 じかきうやう ○家禽 かきん
- 寒たまご かむたまご ○無事消日 むじせうじつ
- 御卵 ごらん

〇同じく返事

御來書の如く、近頃の寒氣は、近年に希れなる嚴しさにて、迎も火爐を擁し候はでは、凌ぎ切れぬ程に候、貴家御一同御壯健の趣き、珍重の至りに存じ候弊堂みなく、無異凌ぎ居り候間、御配慮下されまじく候、將た又寒中見舞と仰せられ、寒卵澤山御贈り下され、伺寄りの好物、深く謝し奉つり候、御答禮と申し候ては失禮に候へ共、此の福壽草一鉢、珍らしき品に

- 自家飼養 じかきうやう ○家禽 かきん
- 本懷の至り ほんかいのいたり ○寒たまご かむたまご
- 御受納 ごうじう

之れなく候へど、御目に掛け候、先づは御挨拶まで、尺書進呈仕り候、拜復

用語解釋

- 御來書 御來書
- 寒氣 寒氣
- 近年 近年
- 火爐 火爐
- 擁 擁
- 貴家 貴家
- 御壯健 御壯健
- 珍重の至り 珍重の至り
- 弊 弊
- 堂 堂
- 無異 無異
- 御配慮 御配慮
- 寒卯 寒卯
- 澤山 澤山
- 好物 好物
- 御答禮 御答禮
- 失禮 失禮
- 福壽草 福壽草
- 御目 御目
- に掛け候 御目に掛け候
- 尺書 尺書
- 拜復 拜復

○暑中見舞の文

三伏の炎暑凌ぐに術なく、唯僅かに扇風の力を仮りて、苦惱を免れ居るばかりに候ところ、高堂皆々様、

如何に御起居なさせられ候や、拙家一統は、幸に無事を樂し居り候へば、御安心下され度候、此の氷數斤は、箱館の親戚より到來せしものに付き些少に候へと貴覽に入れ候、御笑味下され候て、少しにても消熱の御補助に相成り候へば、此の上の幸福は御座なく候、先づは暑中の御安否伺上げ候まで、此の如くに候、頓首

用語解釋

- 三伏の炎暑 三伏の炎暑
- 術なく 術なく
- 扇風の力 扇風の力
- 苦惱 苦惱
- 高堂 高堂
- 御起居 御起居
- 拙家一統 拙家一統
- 無事 無事
- 箱館 箱館
- 親戚 親戚
- 到來 到來
- 些少 些少



配意下されまじく候、此の生葡萄酒は、滋養專一に  
せしもの、由に候へば、御目にかへ申し候、若し消  
閑の一助ともなし下され候へば、實に本望の至りに  
御座候、頓首

用語解釋

入梅

ちゆみのさびはつた、いづくもあつた、  
これをいふは、いづくもあつた、

〇倦み果て

あつた、

〇尊堂

〇弊家

〇御配意

〇生葡萄酒

〇滋養

〇專一

〇消閑の一助

〇本望の至り

もどかりせ

〇同じく返事

來命の如く、霖雨の日にく、濛々として、屋外のお

そびを許さず、退屈此の上なく存じ候折柄、御訪問  
にあづかりしのみならず、消閑の妙藥御惠贈下され  
有りがたく御禮申し上げ候、家族共一同、幸福にも  
至つて健康に御坐候間、御休意にあづかり度候、先  
は御返事まで、取り敢へず寸楮呈上仕り候、貴答

用語解釋

來命の如く

〇霖雨

〇濛々

〇御訪問

〇屋外

〇退屈

〇御訪問

〇消閑の妙藥

〇御惠贈

〇幸福

〇健康

〇御休意

〇取り

敢へず

〇寸楮

〇貴答

〇病氣見舞の文

承はり候へは、大兄近頃御風邪の氣味にて、御就禱  
成し居られ候由、昨今の冷氣の爲め、別におかはり  
も之れなく候や、久しく御出校之れなき爲め、實は  
校友の憂慮一方ならざる儀に御坐候、折角御保養あ  
そばされ、一日も早く御全快相成り候様、千祈萬禱  
の至りに耐へず候、此の品餘り輕少に候へごも、御  
見舞の印まで、進呈仕り候、早々拜具

用語解釋

- 大兄おにい おなご ○御風邪の氣味おふうじゃのきみ ○御就禱おじゆだう
- 昨今の冷氣こくのれいき このころの ○御出校ごしゅつがう でいこうへ ○校友の憂慮がうりのうり あつこころ ○
- 折角御保養せつかくごおんぼやう よくいをつけてやま ○御全快ごぜんくわい なほる ○千祈萬禱せんきばんねん ほんいのもり ○輕

少せう せう ○進呈しんてい くる

○同じく返事

野生過日來、少しく風邪の氣味にて、長く缺席まか  
り在り候ところ、御念頭に掛けさせられ、態々御見  
舞下され候段、誠に謝するに言葉のなきを覺え申し  
候、特に又、結構なる御贈り物に預かり、御厚意の  
程、長く忘却仕つりまじく候、差したる病氣にも之  
れなき由に候へば、近日の内登校仕り候やうに相成  
り申すべくと信じ申し候、校友諸君にも、貴兄より  
宜しく御傳へ下されたく候、先づは御禮傍右御報告

まで、此の如くに御坐候、頓首

用語解釋

- 野生やせい わた ○過日來くわじつらい このかた
- 缺席けつせき あはれる ○御念頭ごねんとう かへる ○結構けつこう このち ○御厚意ごこうい あついろ ○忘却ぼうせつ
- 差したる病氣さしたるびやうき べつたひひたて ○近日の内きんじつのうち ちかきり ○登校とうがう あがる
- 校友がうゆう ともたち ○御傳へごんづたへ つて ○御報告ごんほうこ あはせ

○留守見舞の文

御兩親様御病氣の爲め、此の程熱海へ湯治に御出掛け遊ばされ候由、時節もちようご宜しきごきに候へば、御全快疑ひなきことと存じ候、御留守中は、定めて御淋しきことなるべしと存じ候は、如何に御坐

候哉、若しおさびしく御坐候は、愚息兄弟にてもさし上げ申しべく候、先づは御見舞かたく、右伺ひ上げ候、匆々

用語解釋

- 御兩親ごりやうしん おや ○湯治たうぢ おんせんはいりて
- 御留守中ごりうしゅちゆう あるじの上 ○御淋しきごんしんしき ものまひしく ○愚息兄弟ごおきけいだい おとこ

○同じく返事

父病氣の爲め母親附き添ひ、湯治に参り候留守を御心配下され、御深切なる御見舞に預り、厚く御禮申し上げ候、兩親出立の砌り、何事が出来いたし候は、松影様へ御依頼申せとの言ひ置きに候へば、御



寢耳に水は、昨夜の近火を評せしものかと存じ候  
併し僥倖にも風向好く、且つ消防の盡力一方ならず  
候爲め、類焼を免れ申し候、早速の御見舞に預り、  
有りがたく御禮仕り候、不備

用語解釋

- 評 ひやう 評 ひやう
- 僥倖 りやうしやう 僥倖 りやうしやう
- 風向 かざむき 風向 かざむき
- 消防 しょうぼう 消防 しょうぼう
- 盡力 じんりきよく 盡力 じんりきよく
- 類焼 るいせう 類焼 るいせう
- 早速 さつそく 早速 さつそく
- 不備 ふび 不備 ふび
- 昨夜の近火 こけやのきんくわ 昨夜の近火 こけやのきんくわ

○洪水見舞の文

先日來の霖雨にて、所々の堤防破壊いたし候由、御  
宅近邊には、有名なる堤防多く之れあり候が、別に

變りたる事も之れなく候や、向島邊は、舟にて通行  
いたし居ると承はり候ゆる、心痛まかり在り候、若  
しお人を要せられ候もやこ存じ、一人さし上げ候、  
匆々

用語解釋

- 先日來 せんじつらい 先日來 せんじつらい
- 霖雨 りんう 霖雨 りんう
- 所々の堤防 ところところのていぼう 所々の堤防 ところところのていぼう
- 破壊 はかい 破壊 はかい
- 有名 いうめい 有名 いうめい
- 通行 つうかう 通行 つうかう
- 心痛 しんつう 心痛 しんつう
- 御宅近邊 ごたくきんぺん 御宅近邊 ごたくきんぺん
- 要 ひやう 要 ひやう

○全じく返事

貴命の如く、過日來の雨にて、何所も彼所も水攻の  
苦惱に合はざるところはなき様に御座候、中にも弊



宅近傍は、先づく其の魁かと思はれ申し候、唯今は又御見舞下され、殊にお人まで御遣し下され、有りがたく御禮申し上げ候、お人は、明日まで拜借仕り候、先は御答禮まで、此の如くに候、匆々

用語解釋

わたくしが

○魁

○お人

○過日來

○苦惱

○弊宅近傍

○烈風見舞の文

昨夜の烈風は、實に近年に希れなる荒れやうにて、破損の箇所も、少からずこのことに候が、尊堂御近所は、別に大した損傷も之れなく候や、又御家族様

方に、別に御怪俄も之れなく候や、若し人手を要せらるゝやうなことを之れあり候はゞ、下男共さし上げ申すべく候、先は御見舞まで、尺書進呈致し候、不

用語解釋

昨夜の烈風

○破損の箇所

○尊堂

○御近所

○大した

○損傷

○御怪俄

○下男共

○尺書

○全じく返事

來書の如く、昨夜の烈風は深更の事云ひ、近年稀有なる猛烈の風力と云ひ、如何なる結果を生じ候や

と、實に心痛まかり在り候ところ、夜明け近くなり  
風力も衰へ、一安心いたし候、今朝見廻り候結果を  
御報告いたし候へば、別に大した破損は之れなく、  
唯板塀の悉皆を吹き倒され、家根瓦の二三ヶ所吹き  
捲くられ九位に候間、御休神下され度候、貴家は如  
何に御座候や、御見舞相おくれ、汗顔之れに過ぎず  
候、先づは御禮まで此の如くに御座候、敬復

用語解釋

- 來書 らいしよ
- 深更 しんかう
- 近年稀有 きんねんすうりやう
- 猛烈の
- 風力 ふうりき
- 結果 けつぐわ
- 心痛 しんじゆ
- 衰へ おとろ
- 一安心 ひとあんしん
- 汗顔 あせがほ
- 御報告 ごほうこく
- 破損 はたん
- 悉皆 しつがい
- 御休神 ごきよしん
- 御座候 ござう

○地震見舞の文

昨夜半の地震は、實に十年來曾て逢はざるごころの  
強震に之れあり候、弊宅は御承知の如き古屋に御座  
候ゆゑ、破損の個所も大分出來いたし候、御宅御近  
邊は、如何に御座候や、心許なく存じ候ゆゑ、下男  
に御様子伺はせ候間、若し御用も御座候はゞ、御遠  
慮なく御使用下され度候、先は御見舞まで、寸楮進  
呈いたし候、匆々

用語解釋

- 昨夜半 さやはん
- 十年來 じゅうねんらい
- 強震 きやうしん
- 弊 へい

宅たくわたく ○御承知ごしやうち ○古屋ふるや ○破損はたん ○大分出來だいぶんしゅらい  
○御近邊ごきんぺん ○御様子ごようす ○御隱慮ごいんりょ ○御使用ごしじよう ○寸緒すんじゆ

○全じく返事

仰せの如く、昨夜の強震には、實に驚き申し候、併し拙宅は幸福にも、高燥の地に之れあり候ため、比較的、損害少なく候間、御安心下され度候、將又近所にも、大した損害之れなき由に御坐候得ば、合せせて御報いたし候、先づは貴答まで、匆々拜復

用語解釋

仰せの如く ○強震 ○拙宅 ○幸

福ふく ○高燥かうそう ○比較的損害ひかくてきそんがい ○御安心ごあんしん  
御報ごほう ○貴答きたふ ○

○大雷見舞の文

今朝來の大雷は、實に激烈を極め候て、荆妻の如きは喫驚のあまり、前後不覺と相成り申し候、貴家御一同様には、別に御かはりもなく候や、又御住居等にも、別におさはりなく候や、一寸御見舞申し上げ候、頓首

用語解釋

今朝來の大雷 ○激烈 ○荆妻  
○喫驚 ○前後不覺 ○貴家御一同

○全じく返事

尊命の如く、今朝來の大雷は、近年稀有の劇烈なる音にて、小生の如く平生何とも思はぬ程のものも、稍不安の念を抱くやうな仕義と相成り申し候、弊堂には、別に怪俄人も之れなく、亦損害も之れなく候間、憚ながら御安心下され度候、先づは御返事まで勿々頓首  
二伸、御令室様は如何に候や、序でながら伺ひ申し上げ候

用語解釋

尊命 そんめい 今朝來 けんていらい 大雷 たいらい 近年稀有 きんねんけう 劇烈 げくれつ 小生 せうせい 平生 へいせい 何とも思はぬ程 なにもおもはぬほど 仕義 しぎ 相成り あひなり 申し候 まをす 弊堂 へいたう 別に べつに 怪俄人 けいゑじん 之れなく これなく 亦 また 損害 そんがい 御安心 ごあんしん 下され度 くだされど 候 まをす 先づ まづ 御返事 ごへんじ まで まで 勿々 むつむつ 頓首 とんしゆ  
二伸 にしん 御令室様 ごれいしつさま 如何に いかにか 候や まをす 序 ついで でながら ながら 伺ひ うかがひ 申し上げ候 まをす

劇烈 げくれつ ○平生 へいせい ○不安 ふあん ○仕義 しぎ ○弊堂 へいたう ○怪我人 けがにん ○損害 そんがい ○御安心 ごあんしん

○大早見舞の文

打ちつゞきての早魃にて、農作物に非常なる影響を及ぼし候由は、去月來屢耳にいたし居り候も、追附け降雨を得候こともやご、實は恃むべからざることを恃みにして、日一日と経過いたし候も、降雨なきこと依然として元の如くに候、御尊家田畑の模様は如何に候や、餘り氣遣はしく候まゝ、尺書をもつて伺ひ上げ候、謹言

用語解釋

早魃 かんぞう ○農作物 のうさくぶつ ○非常 ひじょう ○影響 えいさう  
 ○去月來 きげつらい ○降雨 かうう ○經過 けいこう ○依然 いぜん ○田畑 たはた  
 模樣 もよう のありさま ○尺書 せきしょ あり

○全じく返事

御同様に、今回の早魃には、殆んど閉口致し候、併し今日までのところにては、別に大した損害も之れなきやうに候へば、御安慮に預り度、されど今一週間も此のまゝに打ち過ぎ候ては、其れこそ由々しき大事に御座候、星まはり杯より推考いたし候へば、決して悪しきことは之れあるまじく存じ候、先は

御挨拶まで、此の如くに候、不備

用語解釋

御同様に ごどうじょうに ○今回 こんかい ○早魃 かんぞう ○閉口 へいこう ○御安慮 ごあんりょ ○一週間 いつしゅうかん ○由々しき大事 よしよしきだいじ ○推考 すいかう  
 ○挨拶 あいさつ あり ○不備 ふび あり

贈呈門

品物 しなぶつ を人に贈る ひとにまく とき、之れに添へて送りやる文章 ぶんしょう なり、是れ等は、所謂口上文 くわうじやうぶん にて、別に大かしく考ふべきものにあらず、且つ長たらしく無用の文句 ぶんく を並べ立つべきものにもあらず、つまりさらりと用事 ようじ のみを書きおくりて、其の用 よう を辨 せん する具となすべきものなり

○新茶を贈る文

此の新茶は、宇治の走りとして、態々送り呉れしものに御座候、獨り味ひ候も、興味なき儀と存じ候へば半斤丈御配分仕り候、御笑味下され候て、良否御批評下され度候、敬具

用語解釋

- 新茶 しんちゃ 〇宇治の走り うぢのはしり
- 〇半斤 はんぎん 〇御配分 ごはいぶん 〇御笑味 ごせうみ 〇良否 りやうひ 〇御批 ごひ
- 〇早物 はやもの 〇早物 はやもの 〇拜味 はいみ
- 〇葉振 ちやのば 〇香氣 かき 〇逸品 いつびん 〇別製 べつせい 〇鑑定 かんてい
- 〇拜眉 はいび 〇書面 しよめん

〇全じく返事

宇治産の早物として、新茶半斤贈り下され、早速拜味仕り候ところ、葉振と云ひ、香氣と云ひ、類ひ希れ

なる逸品にて、かならず宇治の別製なるべしと、鑑定いたし候、何れ拜眉の上御禮申し上ぐべく候へども、取り敢へず書面にて御禮申し上げ候、拜復

用語解釋

- 宇治産 うぢさん 〇早物 はやもの 〇拜味 はいみ
- 〇葉振 ちやのば 〇香氣 かき 〇逸品 いつびん 〇別製 べつせい 〇鑑定 かんてい
- 〇拜眉 はいび 〇書面 しよめん

〇松茸を贈る文

昨夜遅く、京都の親戚より、稻荷山の松茸贈り呉れ候間、珍らしき品に之れなく候へども、一籠進呈いたし候、若し御晩酌の料に供せられ候へば、本懐の

至りに耐へず候、敬白

用語解説

○供

親戚

○稻荷山

○純晚酌

○料

○全じく返事

稻荷山の松茸は、實に海内に冠たるものにて、常々切望仕り居り候ても、東京にては眞物を得るに六かしく、止むを得ず信州野州杯の物にて満足まかり在り候折り柄、珍らしき眞物贈り下され、久し振りにて眞味を味はひ申し候、今夕は花影にて、昨今になき甘露に舌づゝみ打ち申すべく候、先づは右御禮ま

で、匆匆此の如くに候

用語解説

海内

○冠たり

○切望

○信州

○野州

○満足

○眞味

○今夕

○昨今

○甘露

○西洋林檎を贈る文

西洋種の林檎は、岩手、青森、北海道より出づるものをもつて、最良のものごいたし居り候得共、何かいたし候はゞ、之れに凌駕するものを作り出し候方法もやと、先年來自園に栽培いたし試み候も、良結果を得ず、頗る遺憾に存じ居り候ところ、今年に

至り、稍苦心の効を露せしやうに候へば、其の内  
最大なる十數箇、貴覽に入れ候、香味に於いて、未  
た遺憾なるところ之れあり候へども、御笑味御批評  
下され度候、匆々頓首

用語解釋

西洋種の林檎 ○最良 ○凌駕 ○方

法 ○先年米 ○自園 ○栽培 ○良結果

遺憾 ○苦心の効 ○最大 ○貴覽に入れ

香味 ○御笑味 ○御批評

○全じく返事

御苦心の程果實にあらはれ、實に見事なる林檎と相

成り候を、澤山に御惠贈下され、有りがたく御禮仕  
り候、申せば阿諛に近く候へ共、既に東北地方の産  
を凌駕せるものかと存ぜられ候、御満足の段、御浦  
山敷候、先は御禮の印しまで、和歌浦産の酢漬一瓶  
進呈仕り候、匆々

用語解釋

御苦心 ○澤山 ○御惠贈 ○阿諛

凌駕 ○御満足 ○酢漬 ○一瓶

○松實を贈る文

松實は、岩手縣盛岡地方に限り、産するところの特  
殊の果實に候、椎の實よりは香氣も好くあぢはひも



高等に候、而して此の實は五葉の松に限り、附くところのものにて、普通の松には、決して生ぜざるものに候、今回岩手、在勤の知己の許より、十數個贈り呉れ候に付、七個丈御裾分仕り候、御笑味下され候へば、本懐の至りに候、不備

用語解釋

松實

特殊

果實

香氣

御笑味

高等

普通

今回

在勤

知己

御裾分

分

御笑味

本懐の至り

○全じし返事

誠に珍らしき物を頂戴いたし候、私共は、松かさ

云ふものは、喰はれるものにあらずと、堅く信用いたし居り候ところ、御惠贈下され候品を拜見いたし候ひて、食用に供せ得られ候ものと信ぜられ候、國々により、色々の奇しき物のあることは信じ居り候へど、斯るものは、實に珍らしきもの、中の、最も珍らしきものに候、何れ參上の上御禮申し上ぐべく候へ共、取り敢へず書面にて御禮仕り候、敬復

用語解釋

頂戴

信用

御惠贈

拜見

食用

奇しき

書面

○筈を贈る文

此の筈は、目黒より取り寄せ候ものにて、珍らしき品には之れなく候へ共、稍早出の方候ゆる、七本丈御目につけ候、御晩酌の料に御備へ下され候へば本望之れに過ぎず候、匆々不一

用語解釋

目黒 めくろ めくろのなまはら ○早出の方 はやで はやで ○御晩酌の

料 れう れう ○本望 ほんぼう ほんぼう

○年魚を送る文

御覽の通り、此の年魚は、一尺二三寸の長を有し居り候逸物に御坐候。此れは、陸中の國の、猿瀬川の、下流、湍瀬云ふところより漁れる品にて、實に海

内無雙の稱これあるものに候、今度湍瀬村の横川氏より、罷々贈り呉れ候間、數尾御裾分いたし候、素より天下の絶品と稱せられ候ものゆゑ、充分御風味下され候上にて、世評の適否、御確め下され度候、敬白

用語解釋

逸物 いつぶつ 逸物 ○猿瀬川 さるせがわ さるせがわ ○湍瀬 たんせ たんせ

○海内無雙 かいだいむそう かいだいむそう ○數尾 すうび すうび ○天下の絶品 てんかのぜつぴん てんかのぜつぴん ○充分 じゅうぶん じゅうぶん

○御風味 ごふうみ ごふうみ ○世評 せひやう せひやう ○適否 てきひ てきひ ○御確め ごんたしめ ごんたしめ

敬白 けいひやく けいひやく

○全じく返事

一覽いたし候ばかりにて、天下の絶品なることを悟り申し候。玉川の年魚など、誇り居り候へども、此の品と比べ候ては、實に三文の價もなきやうに思はれ候。早速調理いたし、其の香味を賞翫仕り申すべく候。謹言

用語解釋

一覽 いちらん 一覽 いちらん ○天下に絶品 てんかにつつびん ○三文の價 さんもんあたひ  
調理 てうり 調理 てうり ○香味 かうみ ○賞翫 しょうくわん

○福壽草を送る文

此の花は、誠に目出度花に候へば、むかしから正月元日(一月一日)には、かならず床かざりに致したる

もの、由に候。今は大いに廢たれ候て、用ゆる人も希れに相成り候へども、如何にも其の名が優美に候ゆる。室咲の一鉢進呈いたし候。机上にお飾り下され候へば、有りがたきことに候。不一

用語解釋

床かざり とこかざり ○優美 いゆうび ○室咲 むろのなかにいれ  
机 つくえ 机上 つくえの上へ

○牡丹花を贈る文

此の牡丹花は、自園に栽培いたせしものに候得共、當年は何故か、甚たしき不出來にて、迎も貴覽に備へがたしとは存じ候へど、御高評を乞はざるも残念

に思はれ候ため、兩三枝折り取り座右に進呈仕り候  
若し御愛翫下され候へば、實に此の花の名譽こそ  
存じ奉つり候、拜具

用語解釋

- 自園 じえん ○栽培 さいばい ○常年 ねんねん ○不出來 いふでき
- 貴覽 きげん ○御高評 ごたかひやう ○残念 ざんねん ○座右 ざうざう ○御愛翫 ごあいぐわん
- 名譽 めいよ

○全じく返事

唯今は、美事なる牡丹花御惠投に預り、深く謝し奉  
つり候、目下拙庭には、一の花を開ける草木なく、  
頗ぶる殺風景を極め、插花の料にさへさし支へ居り

候ごころへ、此の艶麗なる花を贈り下され候ご故  
一層厚く高意に感じ申し候、早速机上加ざり候ご  
ころ、君子に相對する心持と相成り、志氣おのづか  
ら快然と相成り申し候、拜趨御禮申し上ぐべき筈に  
候へごも、免に角手簡に依頼いたし、一先づ御禮申  
し上げおき候頓首

用語解釋

- 御惠投 ごけいとう ○目下 もくげ ○拙庭 せつてい ○草木 そうぼく
- 殺風景 ころせふけい ○料 りょう ○艶麗 えんれい ○一層 いっしやう ○高意 かうい
- 机 き ○机上 きじやう ○君子 くんし ○心氣 しんき ○快然 くわいぜん ○拜趨 はいすう
- 手簡 てかん ○依頼 いらい

○菊花を贈る文

兼ねて培養まかり在り候菊花、昨今に至り漸やく世間並と相成り申し候、依つて輪の最大なるものと、香氣の馥郁たるものよみを撰み、四五株献呈仕り候若し御高吟の材料に御供へ下され候へば、本懐の至りに候、謹言

用語解釋

- 培養ばいよう 育てる
- 昨今きのう 最近
- 漸すす 徐々に
- 世間並よけんなみ 世間並
- 輪りん 輪の最大
- 香氣かき 香氣の馥郁
- 馥郁ふよく 馥郁
- 四五株しご 四五株
- 御高吟ごかうぎん 御高吟の材料
- 本懐ほんくわい 本懐

○全じく返事

御愛培の菊花數株、態々御惠贈下され、鳴謝奉つり候、日夜の御骨折花の色に露はれ、香ひの深きと色の濃かなるは、實に人をしてほれぐとならしめ申し候、不日腰折一首仕つり、御目にかけて申すべく候且つ花壇に移し、大切に培養仕り、重陽の節を相待ち候ことにいたし申すべく候、先づは御禮まで、勿々此の如くに候、頓首

用語解釋

- 御愛培ごあいばい 御愛培
- 數株すうしゆ 數株
- 御惠贈ごけいぞう 御惠贈
- 鳴謝めいしゃ 鳴謝
- 日夜にちや 日夜
- 不日ふじつ 不日
- 腰折一首こしをれいしゆ 腰折一首
- 花壇くわだん 花壇
- 培養ばいよう 培養
- 重陽の節ちゆうやうのせつ 重陽の節
- 九月九日くがつくじふにち 九月九日

○書籍を贈る文

知己よりの報に由つて、貴下の御勤學一方ならざることを承はり、實に羨望の至りに耐へず候、依つて御前途を祝する爲めに、言海、人名辭書の二書進呈いたし候、御受納下され候て、御勤學の用に供せられ候へば、本懐之れに過ぎず候、謹言

用語解釋

- 知己 ちき ○報 ほう ○貴下 きか ○御勤學 ごきんがく ○
- 羨望 せんぼう ○御前途 ごぜんどう ○言海 げんかい ○人名辭書 じんめいじしよ ○二書 ふたしよ
- 進呈 しんてい ○御受納 ごじうなふ ○本懐 ほんくわい

○鈴虫を贈る文

此の鈴虫は、埼玉縣の友人の許より、態夫をもつて贈れ呉れたるものに候、未だ市中には見當り申さず候ゆゑ、三匹だけ進呈仕り候、之れを軒端に掛け置き候へば、武藏野の舊を忍ばれ候て、中々棄てがたき情これあり候様覺え申し候、草々

用語解釋

- 態夫 たいぶ ○市中 しちゆう ○軒端 けんたん ○武藏野 むさしの

○螢を贈る文

此れは美沼川にて捕らへ候螢に御坐候、他のものに比べ候へば、からたも大きく、光りもつよき由に候

ゆる、一袋進上仕り候、東京の夜店にも、多分また  
出で居り申しまじくと存じ候、不備

用語解釋

美沼川 みぬまがわ をかはれてはたるをもつて、なだかい ○他のもの ほかのもの ○夜

店 みせ むしるい、えんじちの ○不備 ふび らぬ

○たねなしの實を贈る文

此の梨は、我が地方に限れる特産物に候、汽車の便  
を借り、一籠呈上いたし候、此の梨には、核といふ  
もの之れなく候、小粒に候へど、云ふべからざる美  
味を備へ居り候、霜に中り候へば、一層のあぢはひ  
と相成り申し候、其の味ひよりするも、其の形より

するも、一種特別の梨らしく思はれ候、若し御意に  
かなひ候はゞ、御遠慮なく御申し起し下されたく候  
謹言

用語解釋

特産物 とくさんぶつ んするもの ○便 べん りたよ ○美味 びみ ちばら ○一層 いつそう ひ

○一種特別 いつしゆとくべつ ひとゐるかはつた ○御意 ごい おこ

誘引門

此の文も、書簡文中の必用なるもので、手紙の文を習はんと  
欲するものは、ごうしても研究せねばならぬものである、し  
かし昔時の文例は、稍冗長にして則るに足らざるものが多  
い、故に成るべく新編にして簡短なる例を擧げ、此の文の必  
用なることを示めさんかと思ふ。

○雪見誘引の文

昨夜より、近年に希れなる大雪となり、樹もなく山となく、田もなく畑となく、雪ならざる所はなき有様となり申し候、雪見にころぶところまでと申す金言も御坐候へば、是れより向島邊へ出掛候ては如何に候や、貴意相伺ひ候なり、頓首

用語解釋

昨夜 ○近年 ○金言 ○貴意

○全じく返事

御誘引に預り、有り難く鳴謝奉つり候、御言葉に従ひ、是れより御伴仕つり申すべく候、大宮公園あた

りの雪景は、嘸と存じ候へども、稍遠路に候へば、是れは追てのことに仕るべく候、先は御返事まで、  
匆々頓首

用語解釋

誘引 ○鳴謝 ○雪景 ○遠路 ○

匆々

○梅見誘引の文

杉田村の梅は、今を盛りと咲き匂い居り候由、同村在住の知己より報告之れあり候間、明朝一番汽車にて、發足いたし候事に、返事差出し候に付、貴意伺ひ奉つり候、若し御不承諾に候はゞ、折り返し御報



に預りたく候、敬白

用語解釋

杉田村 同村在住 知己

報告 〇發足 〇御不承諾 〇御報 〇敬白

〇全じく返事

杉田の梅の天下の絶品たることは、既に承知まかり在り候へども、種々なる差し支への爲め、未だ一度も往觀いたしたること之れなく候、唯今幸にも御誘引下され、御高意の段、有りがたく感謝奉つり候、明朝黎明より參着いたし、御伴仕るべく候、先は御返事まで、斯の如くに候、拜復

用語解釋

絶品 〇承知 〇種々 〇往觀 〇御高意 〇感謝 〇黎明 〇參着 〇御返事

〇野遊び誘引の文

蝶も蜂も躍り出し候時節と相成り申し候、かゝる時節と相成り候にもかゝはらず、一室に閉ぢ籠りて讀書に耽けり居り候は、決して褒めたことには之れなく候、依つて明早朝を期し、上野公園に勢揃ひいたし、飛鳥山、瀧の川、王子權現等へ參り、其れより荒川土堤等を散歩いたし候は、愉快此の上なかる

べしと存じ候、思召し如何に候や、御伺ひ申し上げ候、謹言

用語解釋

一室 ○讀書 ○明早朝 ○散步

○愉快

○全じく返事

仰せの如く、此のうらゝかにして愉快なる時候に際し、一室に幽居いたし候も、心身を害する基に候へば、貴意に従ひ、明日日足のある限り、田野の間を徜徉いたし申すべく候、拜具

用語解釋

愉快 ○時候 ○幽居 ○心身

○花見誘引の文

嵐山の櫻は、實に言ふに言はれぬ所之れあり候、小金井、向島、上野、飛鳥山、荒川土堤の櫻を見あき候我等の目には、必ず目あたらしき思ひをなすなるべしと存ぜられ候、汽車の便の開けたる今日、之れを利用して嵐山の花を見候も、亦一興なるべしと存じ候、今晚の急行にて、御下向ありては如何、尊意伺ひ上げ候、頓首

○貴意 ○日足のある限り ○田野 ○徜徉

用語解釋

利用 ○一興 ○急行 ○御下向

○尊意そんい おこし

○全ぜんじく返へん事じ

御來書ごらいしょの趣おもしろき、委細あさい了承れうじやういたし候、未また其そのの名なはが  
りを聞きき候のみににて實物じつぶつを見みざる野生やせいのことに候へ  
ば、無む論ろん大だい賛さん成せいにて、御伴ごばん仕つかまつり申まをしべく候、外ほかに用よう  
意いいたすべき者ものなご之これれなく候や、伺うかひ度たく候、不ふ一いち

用語解釋

御來書ごらいしょ 来たてがみ ○委細あさい かこ ○了承れうじやう うけたまは  
○實物じつぶつ ほん ○野生やせい くわ ○無論むろん なんじやう ○大賛成だいさんせい おほいになすけ ○用意ようい ける

○沙干狩誘引の文

今日こんにちは、舊曆きうれきの三月三日さんげつさんじつにて、大沙おほしほの時節じせつに候、人ひと

傳手つてに承うけたまはり候へば、品川しんがわ台場邊たいばへの人出ひだり、實じつに未會まゐ  
有あの由よしに候、就つては明日あしたの午後一時前ごごいちじぜんに、品川しんがわへ到いた  
着ちやくいたし候様に、取計とりけいひたく候間、御同意ごどういに候はゞ  
其そのの御算當ごさんたうにて、御來會下ごらいわいくだされたく、尤もつともすべての  
用意よういは、當方たうほうにて辨べんじ措おき候へば、御おからたのみに  
て御參會下ごさんくわいくだされたく候、勿々なげなげ敬白

用語解釋

舊曆きうれき たいいんれ ○大沙おほしほ しほのまじひのた ○人傳手ひとつて ひどよりひこと  
○未會有まゐ いまたかつてあら ○到着たうちやく つきたる ○御同意ごどうい つたしたる ○御算當ごさんたう かぞへ  
○御來會ごらいわい まあは ○當方たうほう こゝ ○御參會ごさんくわい まゐ

○全ぜんじく返へん事じ

沙干狩の楽しみは、曾て耳に致し候へ共、未だ實地に試みたることは之れなく候、然るに今日御誘引にあづかり、近頃のよろこび之れに過ぎずと萬謝奉つり候、御指圖の時間に間違ひなき様、きつと參會致すべく候間、左様御承知下されたく候、拜復

用語解釋

沙干狩

○實地

○萬謝

○參會

○左様

○御承知

○螢狩誘引の文

大宮公園の近間なる、美沼川の螢は、世に名だかきものに候、近年は餘りあさり過ぎ候ため、昔日の觀

は之れなき由に候へ共、また外場所に比べ候へば、中々見物に候よきに御坐候、依つて午後五時の汽車にて同所に參り、見物いたし候ことに取り極め候間、御贊同下され候ては、如何に候や、御尊慮伺ひ奉つり候、草々不一

○全しく返事

お勧めに任せ、きつとお伴いたし申すべく候、最も

一三人の足弱連を伴なひ申すべく候間、あしからず御承引下され度候、先は御返事まで、早々

用語解釋

足弱連 足弱連 ○御承引

○舟遊び誘引の文

昨今の炎暑には、實に恐縮いたし候、此のまゝ我慢仕り候ては、生命にかゝはり申すべく候間、十時より船にて海上に出で、海風に吹かれて一日涼を納れ、夜に及んで月に送られ歸宅いたし候はゞ、近頃のたのしみなるべしと存じ候、貴意如何に候や、伺ひ上げ候、謹言

用語解釋

昨今 ○海上 ○炎暑 ○恐縮 ○我慢 ○我慢 ○海風 ○歸宅 ○謹言

○全じく返事

あつさを凌ぎ候には、海上に上越すものは之れなく候、お勤めに任せ、御同伴相願ひ申し度候、若し網打候人を雇ひ、納涼を兼ねての川狩は、尙更妙なるべしと存じ候、但し海上にては酒を飲み、肴を貪りて放歌吟詩勝手たるべき定めに候、右心づき候まゝ建議いたし候、頓首

用語解釋

御同伴 ○納涼 ○放歌

吟詩 ぎんし からうたを ○建議 けんぎ をいひたてる

○月見誘引の文

更科田毎の月は、天下の絶景と申し候へば、一度は見たきものと存じ候折から、今回汽車の便の開けたるを幸いにいたし、同所の月を賞で申したく、御意見如何に候や、伺ひ上げたく候、再拜

用語解釋

更科田毎の月 さらしなたまのつき ○絶景 ぜつけい なべてな ○今回 こんかい たび ○賞で あめで ○御意見 ごいけん おとこころを ○再拜 さいはい あがむ

○全じく返事

地理書にて、田毎の月の名所なることをば承知いた

し候へども、未だ實地に就いて實景をば一見致さず候、汽車の便を借りての御目論見、至極面白く候へば、是非御件願ひ上げたく候、先は御返事まで、早々頓首

用語解釋

名所 めいしよ なだかき ○實地 じつち じつじやう ○實景 じつけい けりけしお ○一見 いちけん いちけん ○目論見 めいろんけん たて ○至極 しごく へたぐ

○草狩誘引の文

兩三日來の雨にて、初草の發生非常なる由、高崎在の友人より報知之れあり候間、明朝の一番汽車にて足いたすの所存に候、大兄も御奮發なされ候ては

如何、餘程の慰さみこ相成り申すべく候、先づは御  
誘引まで、早々頓首

用語解釋

發生 〇非常 〇報知 〇發足 〇所  
存 〇奮發 〇高崎任

〇蕨採り誘引の文

昨年焼き立て候野原一面に、蕨の發生驚くばかりな  
りこの報告、川越在の親戚より参り候に付、明日出  
立一日の氣散じ致すの所存に候、貴兄も御令息を伴  
ふての御慰みは、如何に候や、若し御賛同下され候  
はゞ、明朝の一番に間にあい候様に、御來會下され

たく候。拜具

用語解釋

一面 〇發生 〇報告 〇親戚 〇  
氣散 〇所存 〇御令息 〇御賛同 〇御來會

〇釣魚誘引の文

玉川の年魚は、生長其の極に達し候由、昨今の天氣  
合にては、友釣によろしかるべしと存じ候間、一日  
の閑を盗み、實驗いたされ候ては如何、外の釣は  
異なり、餘程興味あるものに候、草々

用語解釋

生長 〇極に達し 〇閑を盗み

○實験 じつけん じつちんこ ○興味 きょうみ きょうみ

○全じく返事 ぜんじくへんじ

友釣の事は、豫ねて聞き及び居り候へ共、曾つて之れを實験したることは之れなく候、而るに今度の御誘引に因つて、之れを實地に試み候ことを得るの道理に候へば、奮つて御同行相願ひ申すべく候、先は御返事まで、匆々此の如くに候

用語解釋

友釣 ともづり ともづりのめすのなにいをばし、これをつりてのさばりよす、そのさばりよすつりてのさばりよすをばし、これをあつちつりてのさばりよすをばし

つかけてつりあけるなり ○實験 じつけん じつちんこ ○道理 だうり こと ○同行 どうぎょう いっしょ

○菊見誘引の文

向島花月華壇にて培養致し居り候菊花は、實に世に珍らしき異種のものに候由、近頃は紅白艶を競ひ、黄紫美を争ひ候て、一段の見物に之れあり候趣き、見て参り候ものゝ話に御坐候、團子坂の俗臭紛々たる菊には愛想を竭し候我々、彼の仙境に遊んで仙花を賞し候も、中々に興味あることかと存じ候、明日の日曜日を幸いとし、此の仙花を訪ひ候ては如何に候や、貴意伺ひ上げ候、頓首

用語解釋

培養 ばいよう つちかひ ○異種 いしゆ べつたん ○紅白艶を競ひ こうはくえんをきまひ あかきものどしあかきものどし

○黄紫美を争ひ くわしびをあそび あかきものどしあかきものどし ○一段 いちだん ひととち ○俗臭 ぞくしう くさな



紛々まぎまぎ ○仙境せんけい ○仙花せんか ○興味きょうみ ○貴意きい

○七草見物誘引の文

秋も七草ななくさの時候じこうと相成あひなり申し候まを、向島むかしま百花園ひゃくかの七草ななくさは、今いまを盛さかりこ媚こびを呈てし居ゐり候まを由よし、一日いちにち杖つゑを曳ひき候まをて、秋あきのあはれさを賞しょうし候まをも、實じつに愉快ゆかいなるべこと存ぞんじ候まを、如何いか御往觀おわくわんの御意ごい之これれなくや、伺うかひ奉たまつり候まを、草々そうそう不宣ふせん

用語解釋

七草ななくさ ○愉快ゆかい ○往觀わくわん ○

御意ごい

○紅葉狩誘引の文

瀧たきの川がはの紅葉もみぢも、海晏寺かいえんじの紅葉もみぢも、既すでに見みあき申し候まをへは、今年ことしは遠とほく高尾山たかおさんへ出でかけ申まをしたきこと存ぞんじ候まを、承うけたまはり候まをへは、高尾山たかおさんの紅葉もみぢは、満目まんもく雄大ゆうだいにして、氣宇きうたのづから豁然かつぜんといたし候まを由よし、一日いちにち閑かんを竊ひそみ、登山とんざんいたし候まをては如何いか、尊慮そんりょ伺うかひ奉たまつり候まを不備ふび

用語解釋

瀧の川たきのがは ○海晏寺かいえんじ ○高尾山たかおさん ○満目まんもく ○雄大ゆうだい ○氣宇きう ○豁然かつぜん ○登山とんざん ○尊慮そんりょ

○蓮見誘引の文

蓮の花の最も優美なるは、不忍の池に於いて見るとき  
ころに候、しかし向島邊の蓮田の花を見候へば、又  
おのづから捨てがたきところも之れあり候、就いて  
は今日の正午より、向島邊をぶらつき申すべき決心  
に候、雅兄も御出かけなされず候や、秋葉神社の裏  
手あたりは、特の外見ものに候由、先は御誘引申し  
上げ候まで、此の如くに候、敬白

用語解釋

優美いらいび 捨でがたきすてがたき 決心けつしん 雅が

兄けい 特の外とくの外

○東京見物誘引の文

西南戦争以後、曾て上京したることなき田舎漢に御  
坐候、而るに今日は御承知の通り、身代を恠に譲り  
候て、樂しく老後をおくる身分と相成り候へば、先  
づ東京見物仕り、世の變遷を見申し度貴下も長く御  
上京なされず候由、曾てお話し之れあり候ゆゑ、強  
ひて今回の御同行願ひ上たく、否や御都合伺ひ奉つ  
り候、草々不一

用語解釋

西南戦争せいなんせんそう 上京じやうきやう 老後らうご

變遷へんせん 貴下きか 今回こんかい 御同行ごどうぎやう

○伊勢參宮誘引の文

お伊勢様は、我々日本人のごうしても尊信すべき神様に候、然るに我々は、不幸にも未だ参詣いたしたること之れなく候、依つて今年の豊作を幸期とし、是非参詣いたし度と存じ候、貴兄もかねて一度は参宮したきものご、仰せられたるやうに思はれ候へば御誘引申し上げ候、尤も同行者は、七八名是れあり候事に候、謹言

用語解釋

尊信 尊敬することし  
不幸 不幸せあり  
参詣 参詣する  
豊作 豊作あり  
幸期 幸期あり  
是非 是非あり  
同行者 同行者あり

○書畫會に誘引の文

今日は江東中村樓にて、東京に有名なる先生方の、書畫會之ある由に候へば、御参會なされ候ては如何に候や、御案内申し上げ候間、御同行あそばされ候様、企望いたし候、頓首

用語解釋

江東 江東あり  
有名 有名あり  
参會 参會あり  
案内 案内あり  
企望 企望あり

依頼門

此の文章は、口上文にて、唯さらりて用事のみを記載して、人に遺す所の文章なりと思ふべし、故に成るべく簡短にして明瞭なるやうに作るべし、決して入らぬ文句をならべ立て、

冗長に作るべからず、何となれば、冗長とは此の文體の禁物なればなり

〇保証を頼む文

今度愈々中学校に入校することに相成り候に付、身元保証人を要すること、相成り候ところ、御承知の如く、知人に乏しき野生のことに候へば、實以つて困却を極め候、近頃御迷惑のこと、存じ候へども、何卒御保証成し下され度、右御依頼申し上げ候、頓首

用語解釋

〇依頼

保証

〇知人

〇野生

〇困却

〇迷惑

〇傳言を頼む文

今朝委曲御物語りいたし候通り、國許よりの電報にて、大急ぎに歸縣いたし候ため、何れも様へ御無沙汰のまゝ、出立いたし候間、貴君より皆様方へ、よろしく御傳言成し下され度、再應御依頼申し上げ候再拜

用語解釋

委曲

〇電報

〇歸縣

〇御無沙汰

〇出立

〇傳言

〇再應

〇依頼

〇仕立物を頼む文

今度の嫁入に着せてやるべきものに候間、御手を煩

らし候事に候、外にも頼みつけの人之れあり候へ共、  
迎も貴下の御仕立ものは比べものにならず候故、  
御多忙中を顧みず、御無理願ひ上げ候次第に候、何  
卒来る何日までに、御仕上げ下され度、御依頼申し  
上げ候、不一

用語解釋

貴下 ○御多忙 ○御無理 ○次第

○田植に手傳を頼む文

明日より、いよく植つけに従事いたし候間、例年  
の通り、御助勢御依頼申し上げ候、今年は、天氣合  
もよろしく候へば、一同よろこび居り申し候、貴家

の御植付は、何日頃に候や、念の爲め伺ひおき度候  
勿々

用語解釋

従事 ○例年 ○御助勢 ○貴家

○稻刈に手傳を頼む文

雨天つゞきの爲め、一日くその後れ候へ共、いよいよ  
明日より刈入れに着手仕り度、毎度御氣の毒に候  
へ共、いつもの通り御助力に預かり度、右御依頼申  
し上げ候、不備

用語解釋

雨天 ○着手 ○毎度 ○御助力

○茶摘に手傳を頼む文

明日より新芽の摘み取りに取りかかり候間、御愛嬢様方の御手傳ひ願ひ上げ度、御用繁の今日ゆる、御氣の毒に候へ共、例年の例にならひ、御ゆるしの程祈り奉つり候、先づは右願ひ事まで、草々

用語解釋

御愛嬢 ごあいぢやう ○御用繁 ごようはん ○例年の例 れいねんのれい

○移轉に手傳を頼む文

明日は吉日に候由ゆる、新築の家屋へ移轉いたし度近頃御氣の毒に候へども、一日丈御手傳ひ下され度

尤も雇人共の御さし圖さへ願ひ上げ候へば、よろしき次第に候、先は右御依頼まで、早々

用語解釋

吉日 きちじつ ○新築 しんちく ○移轉 いせん ○次第 しだい

○留守を頼む文

小生本日出京大抵三週間ばかり滞在の見込に之れあり候ところ、御存じの通り、留守宅は婦女子ばかりにて、家事取締り上不都合のこと多く御坐候間、近頃御迷惑のこころ存じ候も、何卒度々御見廻り下され候て、何かと御指揮相成りたく、懇願奉つり候、旅装準備にて多忙の際に候へば、用事のみ荒らく

申し上げ候、頓首

用語解釋

小生 せうせい 出京 しゅつきやう 大抵 たいてい 三週間 さんしゅうかん

滞在 たざい 家事 かじ 御迷惑 ごめいわく 度々 たびたび 御指揮 ごし

懇願 こんがん 旅装 りょさう 準備 じゆんび 多忙 たばう

○同道を頼む文

豚兒此度學齡に達し候につき、明日より登校いたさせ候間、近頃御迷惑の事とは存じ候へ共、御賢息様御登校の御序に、御同道成し下され度、此の段御依頼申し上げ候、謹言

用語解釋

豚兒 ぶたご 學齡 がくれい 登校 とうがう 御賢息 ごけんそく

○同道 どうどう

○買物を頼む文

承はり候へば、明日御用の爲め御上京あそばされ候由、御序と申しては恐れ多く候へ共、言海、ことばのいづみの兩書、勤學上必用に候間、御買求め成し下され度、即ち代金として金拾圓さし上げ候、よろしく御願ひ申し上げ候、草々頓首

用語解釋

御用 ごよう 御上京 ごじやうきやう 言海 げんかい ことばの

づみ づみ 兩書 りやうしよ 勤學上 きんがくじやうじやう 必用 ひつよう 代金 だいきん

○媒酌を頼む文

豚兒も、最早丁年を超え、兵役も無事に勤め終り候へば、相應の人物も之れあり候はゞ、嫁に相迎へ申し度と存じ居り候ところ、承はり候へば、松野氏の女は、姿容も十人並にて、學才も相應に之れあり候趣き、當人の血統、親戚の人柄等取り調べ候に、少しも痛しきところ之れなく候間、貴兄御媒酌に立たれ候て、幸福なる結果を見候やう、御盡力成し下され度、此段御依頼申し上げ候、敬白

用語解釋

- 豚兒 ぶたご
- 丁年 ていねん
- 兵役 へいぎ
- 無事 むじ
- 

○居宅の賣却を頼む文

今春來新築まかり在り候邸宅、やうく落成いたし候に付、いよく移轉仕ることに相成り申し候、右に付、是れ迄住居まかり在り候家屋は、不用に屬し候へば、賣却いたし度、御手数ながら、御周旋下され度、右御依頼申し上げ候也

- 相應 さうおう
- 姿容 しよよう
- 學才 がくさい
- 血統 けつとう
- 親戚 しんせき
- 御媒酌 ごばいしやく
- 幸福 しあふ
- 結果 けつぐわ
- 盡力 じんりき

用語解釋

- 移轉 いてん
- 住居 ぢうきよ
- 家屋 かおく
- 不用 ふよう
- 賣却 ばいせつ
- 御
- 今春來 こんしんらい
- 新築 しんちく
- 邸宅 ていたく
- 落成 らくせい



周旋 しゅうせん  
もちり

○田地買入を頼む文

過般來御周旋願い上げ候田地の儀、存外の高價のやうに思はれ候ゆゑ、一時差し控へ居り候へ共、よく聞たゞし候ところ、相當せる價格の由に候へは、急に買入れ申し度、先方へよろしく御對談の上御取り極め下され度、右御依頼申し上げ候、敬白

用語解釋

過般來 くわはんらい このあたりに  
御周旋 ごしゅうせん もちり  
存外 ぞんぐわい のほか  
高價 かうか  
相當 さうたう じやうじやう  
價格 かかく ひた  
御對談 ごたいだん たんば

○雜誌交換を頼む文

貴兄は元來帝國文學御購讀の由に候が、野生は御存じの如く大陽を購讀いたし居り候へは、爾後交換いたし候て讀取いたし候はゞ、相互の便利なるべしと存じ候、貴意如何に候や、御賛同下され候はゞ、直ちに決行仕つり申し度候、頓首

用語解釋

貴兄 きけい たな  
元來 げんらい より  
購讀 こうどく いよむ  
野生 やせい いた  
爾 に じ  
後 ご のち  
交換 かうかん かわり  
讀取 どくしゆ よみ  
相互 さうたう じやうじやう  
便利 べんり べんり  
賛同 さんどう さんどう  
決行 けつかう けつかう

○校正方を頼む文

他の執筆に忙はしく、迎も校正いたしがたく候間

近頃御氣の毒に候へ共、御校正なし下され度、毎日大抵三十三頁づゝ願ひ上げ候事に候、先は右御依頼まで、勿々頓首

用語解釋

執筆 執筆 校正 大抵

○鑑定を頼む文

此の畫幅は、應擧の眞筆なりとて、需め候品に候、而るに或る人は見て、偽筆なりと申し候へ共、我々の見るごころにては眞筆のやうに考へられ候、先生は鑑定に妙を得られ候方ゆゑ、是非見て頂げと申すものは是れあり候間、御迷惑を願みず、懇願仕つり候

次第に候、何卒眞偽御判別成し下され度、此の段御依頼申し上げ候、再拜

用語解釋

畫幅 應擧 眞筆 偽筆 鑑定 迷惑 懇願 眞偽 判別

○土地の案内を頼む文

豫ねて端書をもつて、御報申し上げ候通り、昨夜着京、頭書の旅館へ宿泊いたし候間、左様御承知下され度候、早速昇堂貴意相伺ひ申すへき筈の所、長途の汽車にゆられ、疲勞甚たしく候爲め、缺禮まかり

在り候、御川繁多の折りからにて、甚た恐れ入り候へ共、御存じの如く、都下は全く不案内に候へば、明後日より各所縦覽いたし度候間、何卒御案内成し下され度、前もつて願ひ上げ置き候、匆匆

用語解釋

- 昨夜着京
- 頭書
- 旅館
- 宿泊
- 早速
- 昇堂
- 長途
- 疲勞
- 缺禮
- 御用繁多
- 都下
- 不案内
- 各所
- 從覽

○忘れ物の送致を頼む文

昨夜は長座御勉強の御さまたけ致し、萬謝此事に候

あまり談話に身が入り過ぎ候と見え、火鉢の側へ新体詩の原稿置き忘れ候間、御手数ながら、御郵送下されたく候、先は石御依頼まで、早々不備

用語解釋

- 昨夜
- 長座
- 御勉強
- 萬謝
- 原稿
- 御郵送

○逃亡人の搜索を頼む文

貴兄も御承知の、愚弟の二男駿雄儀、去る八月二十日に家出いたし候まゝ、今もつて歸郷いたさず、察する所母方の叔父をたより、錦地に到り候ことなるべしと存せられ候、尤も金子は餘程持ち出たし候や

うに候へども、何を申すも若年氣銳に候へば、親共の心痛如何ばかりと氣の毒に存じ候間、近頃御手敷恐れ入り候へ共、よく先方の叔父と御相談下され歸郷いたし候やう、御諭し下され度、愚弟に代はり、此の段御依頼申し上げ候、勿々頓首

用語解釋

- 若年 わかねん ○氣銳 きせい 貴兄 きけい ○愚弟 ぐてい ○歸郷 ききょう ○錦地 きんち
- 心痛 しんつう ○先方 せんぱう ○相談 さうだん

○紹介を頼む文

小弟今度勤學の爲め、上京いたし候に就いては、某文學博士の御指教にあづかり度、大兄は長く其の門

下に居らせられ候由なれば、近頃御無理なる御願ひに候へど、何卒同博士へ御紹介成し下され度、此の段御依頼申し上げ候、謹言

用語解釋

- 大兄 たいけい 小弟 せうてい ○勤學 きんがく ○上京 じやうきやう ○御指教 ごしけう
- 門下 もんか ○無理 むり ○紹介 せうかい

○煤掃に手傳を頼む文

明日より、掃煤ひに着手いたし候間、御手傳下され度、御存じの如く、土藏内には大分人手を要する次第に候へば、萬障御さし繰下され候て、御助勢に預かり度、此段御依頼申し上げ候、勿々

用語解釋  
助勢 すけ

着手 けりて  
○大分 たいぶん  
○要 かなめ  
○萬障 ばんしやう  
○御 ご

催告門

此の文章は、比較的用途のひろき文章である、且つむかしから一定の作法あつて、亂すことの出来ぬ体が備つて居る、だから能くむかしの文体を味はひ見て、之れを目下の新体に合せざるやうにせればならぬ、しかし無益な文句は、やはりなほへぬやうにするが肝要に

○輪讀會を催ふす文

夜も段々長く相成り候上に、大試験も目の前に通り

候間、校友四五名申し合はせ、國語漢文の輪讀會を催ふし候ここにいたし候、大兄も何卒御臨席下され候て、我々の疑問を御解き下され候へば、實に幸甚の至りに候、謹言

用語解釋

大試験 たいしけん  
○校友 がくゆう  
○輪讀會 りんくわい

御臨席 ごりんせき  
○疑問 ぎもん  
○幸甚の至り さいしんのいたり

○作文會を催ふす文

文章は、何れの方面に對しても、必用ならざるころは之れなく候、依つて有志の人々を會し、作文會を相開らき、作文の方法を研究いたし候ここに相談

一決いたし候、何卒毎日曜日の夕刻より、拙者方へ御來會成し下され度、伏して懇願奉つり候、頓首

用語解釋

- 研究 けんきゅう
- 相談一決 さうだんいつけつ
- 必用 ひつよう
- 有志 いうし
- 方法 はうほう
- 方面 ほうめん
- 來會 らいかい
- 懇願 こんがん

○談話會を催ふす文

互いに意志を發達せしむるやうな談話をなして、相戒しめ合ひ候はゞ、他日の成功上に對し、大した効能之れあるべしと相信じ申し候、依つて有志の校友相會し、毎土曜日の午後三時より、談話會を相開らばし申し候間、何卒御臨席成し下され度候、頓首

用語解釋

- 意志 いし
- 發達 はつたつ
- 談話 だんわ
- 他日 たじつ
- 成功 せいこう
- 効能 かうのう
- 有志の校友 いうしのがうゆう
- 御臨席 ごりんせき
- 相會 さうかい

○演說會を催す文

演說の巧拙は、我等の成功上に、多大なる關係を有し居り候、故に我等今日の勤には、演說の方法を習練して、他日出世の材料に供し候にあること、存せられ候、依つて三七兩日をもつて、練習の日と定め候ことに取り極め候間、貴兄も毎會夕刻より、御出席下され度、懇願奉つり候、再拜

用語解釋

- 巧拙 (こうせつ) ○成功上 (せいこうじょう) ○多大 (たいたく) ○關係 (くわんけい)
- 方法 (はうほう) ○習練 (しゆれん) ○他日 (たにち) ○出生 (しゆつせ) ○材料 (ざいりょう) ○每 (まい)
- 會 (かい) ○御出席 (ごしゅつせき) ○懇願 (こんがん)

○親睦會を催す文

今日正午より、向兩國伊勢平樓に於いて、國語研空會々員一同の親睦會を相開き候間、會費金二圓づゝ御持參の上、御出席相成りたく、此の段御案内申し上げ候、但し準備の都合も之れあり候へば、御出席否やは直ちに御報相成りたく候也

用語解釋

- 正午 (せいご) ○會費 (かいひ) ○御持參 (ごちさん) ○準備 (じゆんび)

- 案内 (あんない) ○出席 (しゅつせき)

○新年宴會を催す文

來る五日の午後一時より、例年の通り、龜清樓に於いて、新年宴會相催し候に付、是非例刻までに御臨席下され度、此の段御案内に及び候也

但し會費は例年の通り、壹圓五拾錢に候、しかし學生は、其の半額に御座候

用語解釋

- 例年の通り (れいねんのどおり) ○新年宴會 (しんねんげんかい) ○是非 (せひ)

- 例刻 (れいじやく) ○御臨席 (ごりんせき)

○忘年會を催す文

本年も餘日なき今日と相成り、お互いに多忙此の上  
なく候、しかし例年の吉例に従ひ、明何日午後何時  
より、百尺亭に於いて、年忘れの宴會相開き候に付  
何卒例刻より、御來會相成りたく、此の段御案内申  
し上げ候、不宣

用語解釋

- 餘日 あまひ ○多忙 たばう ○例年の吉例 れいねんのきちれい
- 百尺亭 ひやくせきてい ○宴會 えんかい ○例刻 れいこく ○來會 らいかい

○送別會を催す文

我々の常に師事せし所の梅岡香雪君は、今度商業視  
察として、將に洋行せられんとする時に候、依つて

我々校友連は、同志を相募り候て、明日の午後二時  
より、奥の植半に於いて、送別の宴相開らさ申し候  
若し御同情下され候は、例刻より御參會相成りた  
く候、尤も會費は、金何圓當日御持參の定めに候、  
敬白

用語解釋

- 師事 しじ ○視察 しさつ ○商業 しょうぎや ○洋行 やうかう
- 校友連 がういうれん ○同志 どうし ○奥の植半 おくのうえはん ○會 かい
- 送別の宴 そうべつのえん ○御同情 ごどうじやう ○例刻 れいこく ○御參會 ごさんかい
- 持參 ちさん ○費 ひ

○祝捷會を催す文



頑冥なる露國は、米國大統領の厚意を棄て、戦争  
繼續を主張せしは、滿洲軍の總指揮官、「リネウ井ツ  
ク」大將に誤られたる故に候、同大將は、日本軍を  
はきつこ破滅すべしと言ひしにも係はらず、又も大  
敗軍して遂に「ハルピン」を失ひ、「ウラジホストツ  
ク」この通路を失ひ申し候、我が輩日本人たるもの  
は、此の大勝利を耳にいたし候ては、如何んぞ黙々  
に附し去らるべきや、依つて茲に祝捷會を開きて、  
此の大捷を祝することに致し候、何卒明日の午後二  
時より、會費金壹圓御持參の上、江東伊勢平樓へ御

來會相成りたく、此の段御案内に及び候也

用語解釋

- 頑冥 くわんめい 頑固にして、うりやくらひ 頑固にして
- 露國 ろこく 露國
- 厚意 こうい 厚意
- 戦争繼續 せんそうじぞく 戦争繼續
- 主張 しやうちやう 主張
- 總指揮官 そうしきくわん 總指揮官
- 破滅 はめつ 破滅
- 大敗軍 たいばいぐん 大敗軍
- 通路 つうろ 通路
- 大勝利 たいしり 大勝利
- 黙々 もくもく 黙々
- 祝捷會 しよくせいかい 祝捷會
- 大捷 たいせつ 大捷
- 會費 かいひ 會費
- 持參 ちさん 持參
- 來會 らいかい 來會
- 江東 かうとう 江東

○歡迎會を催す文

東郷海軍大將は、「バルチック」艦隊を全滅されて、今  
日御歸京あそばさるゝここに相成り申し候、我々日  
本民族たるものは、いかでか之れを歡迎せず居ら  
るべきや、依つて大將を紅葉館に招待し、歡迎の意

を表すここに致したく候、尤も會費は五圓づゝにて、午後三時より、開會の手筈に御座候、先は右御案内まで、斯の如くに御座候、敬白

用語解釋

- 全滅 ぜんめつ めはるばす ○御歸京 ごききやう かへる ○日本民族 にっぽんみんぞく のいにて
- 歡迎 くわんげい むかひ ○招待 せうたい まね ○開會 かいかい あひあひ ○會費 かいひ のりひ

○祝宴會を催す文

連日の雨天にて、大陽の光りを拜せざるごと、既に四十餘日に及び申し候、天下の擧つて心配いたし候も、無理もなき次第に候、而るに昨朝來、大風起りて滿天の雨雲を吹き拂ひ、やうやく悦喜の眉を開き

申し候、依つて右祝宴會を當村慈雲寺内に開き、充分なる謝意をあらはし候ては如何に候や、若し御異存なく候は、明日正午を期し、御來會の程待入り奉り候、謹言

用語解釋

- 連日 れんじつ ○雨天 うてん ○心配 しんぱい ○無理 むり ○
- 昨朝來 さくあした ○大風 たいふう ○滿天 まんてん ○祝宴會 しゅくえんかい ○當村 たうそん
- 謝意 しやくい ○異存 いそん ○正午 せいご ○御來會 ごらいかい

○潮干狩を催ふす文

先日來の好天氣にて、潮干狩にはうつつつけこ云ふ日和に御座候、特に近年に希れなる大潮の事に候

へば、品海の賑ひも一層思ひやられ申し候、なぐさみ旁、御出向なされ候ては、如何に候や、貴意相伺ひ申し候、匆々

用語解釋

先日來 好天氣 潮干狩 大潮 品海 一層 貴意

〇遊山を催ふす文

秋の山あそび程、たのしき遊びは之れなく候、いろくの茸類は到るところに生出し居るのみならず、山葡萄、栗杯も御座候て、如何にも盡きぬたのしみ之れあり候、かねての御約束も御座候へば、明日に

よく實行いたしたく、御都合伺ひ上げ候、但し雨天の時は順延ご申す事に候、匆々

用語解釋

茸類 生出 實行 雨天 順延

〇夜學を催ふす文

一日増しに夜は長く相成り候へば、晝間の短時間を補ひ候ため、明夜より夜學會を相始め候が、貴意如何に候や、學事に熱心なる貴兄の事に候へば、無論御入會とは存じ候も、念の爲め伺ひ上げ候、匆々

用語解釋

晝間 短時間 明夜 學事

報告門

- 熱心 ねつしん
- 無論 むろん
- 貴兄 きけい
- 御入會 ごにんかい

此の文章は口上文である、だから長きを要せぬ、簡短にして明瞭に書くを目的とするものじゃ、決して入らぬ文句をならべ立て、冗長な文章を書いてはならぬ、又あさまさに入らぬ文句をならべるにも及ばぬ、つまりは用事だけをばつきり書けばよいのじゃ

○出産を報ずる文

愚妻儀、昨夜安産いたし、母子共至極健全に御座候間、御安心下され度候、右取り敢へず御報申し上げ

候、但し出生いたし候は、男子に御座候 匆匆

用語解釋

- 至極健全 しごくけんぜん
- 愚妻 ぐさい
- 昨夜安産 さくやあんさん
- 母子 ぼし
- 御安心 ごあんしん
- 出生 しゅつしやう

○安着を報ずる文

道中無事、昨夜遅く、當地へ安着いたし候間、御安心下され度候、海上は、頗ぶる風波強く、餘程困難いたし候へ共、汽車は、實に靜穩を極め申し候、先は安着御報まで、匆匆不盡

用語解釋

- 道中無事 みちちゆうむじ
- 當地 ちやうち
- 安着 あんちやく
- 海上 かいじやう
- 風波 ふうは
- 困難 こんなん
- 靜穩 せいゑん
- 御報 ごほう

○發足を報ずる文

電報拜見、直ぐ發足いたし候間、御安心下されたく候、到着は、大抵明後日の夕刻と相成り申すべく候、委細は拜眉の上、早々不一

用語解釋

- 電報でんぱう のしらせにて ○拜見はいけん みる
- 發足はつそく なる
- 御安心ごあんしん
- 到着たうちやく つく
- 大抵たいてい さいはし
- 委細いさい ことば
- 拜眉はいび つてから

○病氣を報ずる文

老母儀、過日來、氣分よろしからずさて、臥床まかり在り候所、今日に至るも、依然舊のまゝに候のみならず、少しく下痢の氣味も之れあり候ゆる、念の

爲め御報申し上げ置き候、何を申すも、老体のことゆる、家内一同心痛まかり在り候、頓首

用語解釋

- 老母らうぼ たるばい
- 過日來くわじつらい このかた
- 氣分きぶん こころ
- 臥床ぶしやう
- 依然いぜん まことの
- 下痢げり だらく
- 氣味きみ こころ
- 老体らうたい じしより
- 心痛しんつう

○急病を報ずる文

老父事今朝まで、何氣なく例の通り、盆栽などいちり廻し居り候ところ、只今急病さし起り、如何にも危急にて、實に九死一生とも云ふべき程に候間、御

報申し上げ候、勿々

用語解釋

祖父 らうふ、ちしよりし ○何氣なく なげなく ○例の通り れいのどおり

盆裁 ぼんざい ○急病 きゅうびやう ○危急 きうき ○九死一生 きゅうしいつしやう

御報 ごほう

○全快を報ずる文

過日祖父の病氣の、危急なりしことを御報申し上げ候ところ、早速御見舞下され、有りがたく御禮申し上げ候、爾來醫藥効を奏し、さしもの大病も、薄紙をはぐが如くに全治いたし、昨今のところにては、先づく安心の由に候へば、乍憚御配意下されまじ

く候、先づは御禮かたぐ、右御報まで、勿々頓首

用語解釋

過日 くわじつ ○祖父 らうふ ○危急 きうき ○爾來 にらい ○

醫藥 いやく ○効を奏し かうをそうし ○大病 たいびやう ○全治 せんぢ ○安心 あんしん

御配意 ごはいい

○死去を報ずる文

祖父誰儀、長々病氣まかり在り候ところ、終に養生相叶はず、今日午後何時に、死去仕り候間、取り敢へず御報申し上げ候

用語解釋

祖父 そふ ○養生 やうじやう ○死去 しきよ

○横死を報ずる文

急使をもつて御報申し上げ候、誰儀、今朝まで歸宅  
いたさず候ゆる、又例の事なるべしと信じ居り候と  
ころ、警察署よりの急報に接し、直様出張いたし候  
へば、昨夜歸途に於いて、何者にか殺害せられ候と  
見え、非業の最後を遂げ居り申し候、依て死体は引  
取り申し候へ共、あとに残れるは婦女子共のみにて  
途方に暮れ居り候へば、御來車の上何分の御さし圖  
成し下され度、懇願いたし候、先は御報を兼ね右御  
願ひまで、草々

用語解釋

急使 きんし ついせいの  
○歸宅 きたく かへる  
○例の事 れいのこと のこと  
○急報 きゅうほう しゅうほう

○出張 しゅつちやう 出張  
○歸途 きと 帰途  
○殺害 ころがし 殺害  
○死体 したい からた  
○婦女子 ふごし おんな  
○途方に暮れ とほうにくれ 途方に暮れ  
○懇願 こんがん ねんごつ  
○何分 なにぶん なにぶん  
○御來車 ごらいしゃ くるま  
○何分 なにぶん なにぶん

○轉居を報ずる文

今朝をもつて、是れまでの住居を引き拂ひ、何區何  
町何丁目何番地へ移轉いたし候間、御報告申し上げ  
候、相もかはらぬ破れ屋に候へ共、御通りがけの節  
は、必らず御立寄り下され度候、早々不一

用語解釋

住居 ぢゆうきよ ぢゆうきよ  
○移轉 いってん いてん  
○御報告 ごほうこく ほうこく  
○破れ屋 やぶら やぶら

○開店を報ずる文

豫ねての計畫通り、今度いよく開店いたし、新版書籍販賣仕つり候間、御報告申し上げ候、何品に限らず、他店よりは安償にさし上げ候間、御用の節は書名御報下され度候、先は御報をかね、右御願ひ申し上げ候、草々

用語解釋

計畫通り けいくわくどほ 開店 ひらく 新版書籍 しんぱんしよせやく ばんにまつたほん

○販賣 はんばい 〇報告 ほうこく 〇他店 たてん 〇安價 あんか 〇書名 しよめい

○入校を報ずる文

上京以來、彼是と學校を撰定いたし、久しく入校せずにまかり在り候ところ、昨日企望通りの學校を見

つけ候に付、入校いたし、今日より登校仕り候間、御安心下されたく候、先は右御報まで、匆々

用語解釋

上京以來 じやうかういらい 撰定 せんてい 入校 にかう

企望通り けいぼうどほ 〇登校 とうかう

○出校を報ずる文

病氣の爲め、久しく登校いたさず居り候ことは、かねて御報告申し上げ候通りに御坐候ところ、昨今やうやく全治いたし、今日より愈出校仕り候間、御休意下されたく候、病氣は胃病のヤ、烈しきものに之れあり候、右御報まで匆々



用語解釋

- 出校しゅつがう はてから
- 御休息ごきゅうし やすめる
- 御報告ごほうこ つげし
- 御休意ごきうい やすめる
- 昨今さくこん この
- 全治ぜんち なす
- 登校とうがう はてから
- 御報告ごほうこ つげし
- 昨今さくこん この
- 全治ぜんち なす

○及第を報する文

判檢事の試験も、來三十九年度よりは、各國語を  
も入りて、中々六かしく、中年以來の勉強の我々の  
身に取りては、如何にも大打撃に相違なく、若し今  
年の試験に落第いたし候ては、絶望いたし候より外  
之れなく候處、幸福にも及第いたし、先づく安堵  
いたし候、長らく御心配かけ居り候ゆゑ、取り敢へ  
ず御報申し上げ候、不一

用語解釋

- 絶望ぜつぼう あきらむ
- 勉強べんきやう つとむ
- 大ダメージたいだたげ ひびく
- 相違さうゐ ちがふ
- 落第らくたい あきらむ
- 幸福しあふ あはれ
- 安堵あんどう やすむ
- 心配しんぱい あせむ
- 各國語かくこくご イギリス、フランス、ドイツ
- 中年以來ちゅうねんいらい 三十九
- 安堵あんどう やすむ
- 絶望ぜつぼう あきらむ
- 幸福しあふ あはれ
- 安堵あんどう やすむ
- 心配しんぱい あせむ

○旅行を報する文

暑中休暇の五十日間を利用し、中國、四國、九州を  
漫遊いたし、戦後の人情風俗及び、商工業の有様を  
研究いたし度、明日黎明出立仕り候間、此の段御報  
告申し上げ候

追申、不在中は、よろしく御見廻り下され度候  
女や小兒のみに候へば、何かご御注意願ひ上げ候

敬白

用語解釋

- 暑中休暇
- 人情
- 風俗
- 商業
- 不在中
- 御注意
- 利用
- 漫遊
- 研究
- 戦後
- 追申
- 黎

○歸國の日限を報する文

當地出立は、明朝の一番汽車に候へ共、途中にて下車いたし、一兩日滞在いたし候へば、歸宅は、大抵何日の夕刻に相成り申すべく候間、左様御承知下され度候、先は右御報まで、草々

用語解釋

- 當地
- 下車
- 滞在
- 歸宅

大抵 ○左様

○歸京延引を報する文

本日までに、是非歸京の運びに致し居り候ところ、さし懸りたる急用出来いたし、尙ほ四五日相かゝり申すべく候間、いよく販京いたし候は、一週間の後と御承知下されたく候、若しさしかゝりたる急用出来いたし候は、電報にて御報下されたく候、頓首

用語解釋

- 本日
- 是非
- 歸京
- 急用
- 出来
- 尙ほ
- 一週間
- 電報

○花期を報ずる文

當山の櫻は、來る七八日頃が、最も見頃なるべしと  
存ぜられ候、今日は、厩かに一二輪の咲き出で候を  
見るのみに候、併し爛熳と咲き亂れ候を喜ばぬ方も  
候へば、其の邊は、御汲察を願はねばならぬところ  
に候、謹言

用語解釋

當山 〇一二輪 〇爛熳 〇御

汲察

○解雇を報ずる文

是れまで雇ひ居り候書生某儀、不都合の所爲之れあ

り、昨日をもつて斷然解雇致し候間、爾來弊家とは  
關係之れなく、如何なる儀申し出で候とも、御取り  
上げ下されまじく候、右念のため一應御報いたし置  
き候、謹言

用語解釋

不都合の所爲 〇斷然解雇 〇爾來

〇弊家 〇關係 〇一應 〇取り上げ

○收穫を報ずる文

本年はあまり、雨降りつゞき候ゆゑ、作物に影響を  
及ぼし候はんかと、心痛まかり在り候處、八朔後の  
天候見直し候ためか、收穫ごさの今日となり 豫想

外の豊作にて、一反歩平均三石近く御座候、定めし御心配なされ候事と存じ候ゆる、右御報申し上げ候不宣

用語解釋

- 天候
- 收穫
- 豫想外
- 豊作
- 一
- 反歩平均
- 御心配
- 影響
- 心痛
- 八朔
- 作物
- 前後
- 痛心
- 厄日

○風害を報ずる文

秋の天候は荒れ勝ちにて、特に二百十日前後の荒れ様は、痛心すべきもの之れあるより、厄日なごし稱して畏れ合ふ次第に候、本年は、二百十日も無事に

過ぎ、二百二十日も滞りなく暮らし、全國皆安堵いたし居り候折りから、昨夜來の暴風雨には、實以て驚き入り申し候、今日取り調べ候ところの結果にては、田畑の損害、大抵三割方との見當に候、世間にては、餘程大層に言ひ觸し居り候へど、眞實のことには之れなく候、先は右御報まで、匆々不

用語解釋

- 無事
- 全國
- 安堵
- 昨夜來
- 暴風雨
- 結果
- 損害
- 大抵
- 見當
- 世間
- 大層
- 眞實
- 天候
- 前後
- 痛心
- 厄日

〇商況を報ずる文

營口昨今の商況は、實に活潑を極め申し候、殊に何々品は、至極の上景氣に候間、大至急御廻送相成り度候、先は右御通知まで、草々

用語解釋

營口 〇商況 〇活潑 〇至

極の上景氣 〇大至急 〇御廻送 〇御通知

〇農況を報ずる文

農作の模様は、實に豐熟を極め申し候、此の上風害さへ之れなく候へば、最上々の作柄に候、以上

用語解釋

農作 〇模様 〇豐熟 〇風害

〇最上々の

貸借門

此の文章も亦口上文の一種じや、だから簡明にして分りやすく書くのが主である。決して冗長な文を書いてはならぬ、但し端書用の文と同一と思ふてはならぬ、使者に持たせてやるものと思へばよいのじや

〇書籍を借る文

豫ねて拜見いたし候心理学の書冊、御不用に屬し居り候はゞ、一週間ばかり、拜借仕つりたく、此の者に御渡し下され候へば、望外の幸福に候、不一

用語解釋

豫ねて 〇書冊 〇御不用 〇一週間  
〇拜借 〇望外の幸福

〇書物を返す文

時下燈下の勤學も倦厭を覺えざるの好氣節に候ころ、愈御勉勵あそばされ候段、恭賀奉つり候。過日御恩借の百科字彙、早速御返納申し上ぐべき筈のころ、何かと取りまされ、荏苒今日に到り候段、萬謝の至りに耐へず候、お蔭をもつて、非常なる便利を得申し候、即ち使のものに持せ、さし上げ候間、御落手下されたく候、匆々頓首

用語解釋

時下 〇燈下 〇勤學 〇倦厭  
〇好氣節 〇御勉勵 〇恭賀 〇御恩借 〇早  
速 〇御返納 〇荏苒 〇非常 〇便利 〇御  
落手

〇器具を借る文

今夕來客之れあり、膳碗に不足を告げ、困却まかり在り候間、御秘藏の品、御不用に屬し居り候はゞ、五人前たけ御惠借に預りたく、懇願仕り候、頓首

用語解釋

今夕 〇來客 〇不足 〇困却  
〇御秘藏 〇御不用 〇御惠借 〇懇願

○器物を返す文

御惠借の碁盤、昨夜あまり遅く相成り候ため、御返却方おそなはり申し候、お蔭をもつて、満足なる娛樂會を催し候ことを得、感謝の至りに耐へず候、即ち使のものに持せ、御返納致させ候間、御受取り下されたく候、早々

用語解釋

御惠借 ごけいじやく 昨夜 さくや 御返却 ごへんせき 満足 まんぞく  
○娛樂會 ごらくかい ○感謝 かんしゃ ○御返納 ごへんなん

○雨具を返へす文

途中にて急雨に會ふ程、困難なるものは之れなく候

野生も昨日は此の災厄に遭遇いたし、進退に谷り候折柄、大兄の救助にあひ、厘かに蘇生いたし候、其の節恩借の雨具、取り揃へ御返却仕り候間、御落掌下され度候、匆々、

用語解釋

途中 ちゆうちゆう ○急雨 きゅうう ○困難 こんなん ○野生 やせい  
災厄 さいあく ○遭遇 そつぐう ○進退 しんたい ○救助 きうじゆ ○蘇生 そせい  
恩借 おんせき ○御落掌 ごらくせう

○金子を借るゝ文

過日御話し致し候家屋の儀、愈買ひ入れ候ことに取り極め候ところ、返るべき金子の返へらぬもの之れ

あり、一時金子に差支へ、實に困却仕り候間、若し御手許に御遊金御坐候はゞ、一ヶ月間金參百圓丈、拜借願ひ上げ度、否や御回答下されたく候、頓首、

用語解釋 家屋へ ○一時 ○困却 ○御遊金  
拜借 ○御回答

○金子返濟の文

錦地に滞留中は、種々御世話にあづかり、鳴謝奉つり候、其節御立替へ願ひ上げ候金子、疾くに御返納申し上ぐべき筈のところ、遅延今日に至り、御申し譯之れなく候、唯今幸便を得、差し上げ候間、御入

手下されたく候、先づは延引御申譯を兼ね、右御禮まで、勿々頓首、

用語解釋 錦地 ○滞留 ○種々 ○鳴謝 ○延引  
返納 ○遅延 ○幸便 ○御入手

問合門

此の文も、口上文の一種である、あまり長たらしく書くことを要せぬ、極はつきりと、分りやすく書く必要がある、何せなれば、虚禮よりは實用を尊まねばならぬからである、すべて實用の文は、巧妙を尊ぶといふよりは、はつきりとして分りやすきを尊ばねばならぬものである、だから誤字や脱字をせぬやうに



して、はつきり書きが肝要じや、

○縁談問合せの文

先般來、養子相尋ね居り候ところ、此度貴家御近所なる、某家の二男某は、學才と云ひ年頃云ひ、至極適當なりと注意いたし呉れ候人之れあり、内見仕り候ところ、人物には間然すべきところ之れなく候に付、平生の御懇親に甘え、懇願仕り候は、本人の家柄、氣質、素行等御穿鑿下され度、右懇願奉つり候、謹言、

用語解釋

先般來 せんぱんらい 貴家 貴家 御近所 御近所 學才 學才

○至極適當 至極適當 注意 注意 内見 内見 人物 人物 間然 間然 平生 平生 懇親 懇親 懇願 懇願 氣質 氣質 素行 素行 穿鑿 穿鑿

○試験の日時問合せの文

病氣のため、久しく缺席いたし居り候へ共、今度の試験には、落第するまでも出席いたして見たく存じ候間、試験の時日御手数ながら、御通知下されたく候、先は右願ひごとまで、勿々不一、

用語解釋

缺席 缺席 今度 今度 落第 落第 御通知 御通知 出 出

○作文の宿題問合せの文

今日は、據どころなき用事のため、缺席いたし候に付、作文の宿題相分らず、困却仕り居り候間、近頃御手数恐れ入り候へども、如何なる文題に候や、御示めし下され度、御願ひ申し上げ候、草々、

用語解釋

用事 用事のこと  
○困却 困却すること  
○文題 文題のこと  
○缺席 欠席のこと  
○宿題 宿題のこと

○休校の理由問合せの文

大兄久しく御缺席の様候が、時候にでも當らせられ候や、又家事の御都合にでもよつてに候や、あま

り久しく御缺席に候ゆる、二三の校友に問ひ合せ候ても、判然いたさず候ゆる。御起居伺ひ上げ候、不宣、

用語解釋

大兄 大兄のこと  
○時候 時候のこと  
○家事 家事のこと  
○校友 校友のこと  
○判然 判然のこと  
○御起居 御起居のこと

○書籍の良否問合せの文

日用百科字典といふ字書一部購求いたし度候も、當時出版せる字書は、すべて杜撰極まるもの多く、購求いたしたる後に、大いに持て扱ふこそ是れあり候、就ては頭書の日用百科字典は、如何なる内容のもの

に候か、大兄の御高見伺ひ奉つり度、御手数ながら  
良否御示教下されたく候、勿々、

用語解釋

- 購求 こうきゅう 〇字書 じしょ 〇杜撰 つせん 〇頭書 とうしょ
- 〇内容 ないよう 〇御高見 ごかうけん 〇良否 りょうひ 〇示教 しけう

〇全じく返事

御問合せの件は、御尤もなる御言葉に候、目下は字  
書の世界に候、何れの書肆も、争そふて字書を出版  
いたし居り候へ共、大抵羊頭をかゝけて狗肉を賣る  
たぐいにて、博士學士の名を列ね候へ共、是れみな  
人目を眩惑せしむる卑劣手段にて、學力も經驗もな

き居候的書生に起草せしめながら、麗々しくも自己  
の姓名を列ぬるもの多く、眞に愛想の盡きる話に候、  
されば之れを購求せられんとする人々は、餘程よく  
調査せられたる後ならねば、安心して購求は出來申  
さず候、御問合せの書は、大業に博士學士の姓名を  
列ね候も、内容は見るに足らざるものに候、經濟社  
の人名辭書の如く、深切丁寧なるものは今日は見ら  
れ申さず候、先は御返事まで、勿々頓首、

用語解釋

- 目下 めいか 〇書肆 しょし 〇大抵 たいてい 〇羊頭 やうとう 〇狗
- 肉 にく 〇人目 にんめ 〇眩惑 げんかく 〇卑劣手段 ひれつしゆだん 〇學力 がくりき

- 起草 おこそう
- 麗々しく れいれいしく
- 自己 じこ
- 購求 こうきゅう
- 調査 てうさ
- 安必 あんしん
- 内容 ないよう
- 親切 しんせつ
- 丁寧 ていねい

○醫師の良否問合せの文

御承知の通り、老母の痼疾に苦しみ居り候ことは、實に久しきことに候、然るに今度、貴家にてお頼みつけの、某醫士の治療はたしかなることを傳聞いたし、診察を願つて見たしこのことに候、よき治療法にても之れあり候はゞ、今一度もとの体に致したきものと存じ候に付、御腹藏なき御意見を伺ひ候て、依頼いたして見たく存じ候、御高見如何に御坐候や、

承はり度候、頓首

用語解釋

- 老母 らうぼ
- 痼疾 こじつ
- 治療 ちりょう
- 傳聞 でんぶん
- 診察 しんさつ
- 御腹藏 ごふくざう
- 御意見 ごいけん
- 依頼 いらい
- 御高見 ごたかみ

○人の住所問合せの文

葦原豊君の住所失念いたし、如何に搜索いたし候も、番地町名發見いたさず、殆んど困却仕り候、貴兄は、同君との御交際、殊の外深き御間がらなれば、御承知あらせらるゝに相違なしと、伺ひ上げ候次第に候、御手数恐れ入り候へ共、御報知下され度、是の段お